

II. 統計

1. 実績の概要

(1) 産科部門診療実績

産科部門については診療所、助産所を含む県内全ての分娩取扱医療機関にデータ提供を依頼し、県内の周産期医療の現状を把握できるようにしている。

対象医療機関は11病院、16診療所、8助産所となっている。

本調査による2017年の総分娩数は9,596例であった。うち病院が4,178例で43.5%、診療所が5,213例で54.3%、助産所が205例で2.1%となっている。

早産と言われる37週未満の分娩は457例で全体の4.8%となっている。また低出生体重児は823例で8.5%となっている。診療所でも253例(全低出生体重児のうちの30.7%)の低出生体重児を扱っている。高年出産と言われる35歳以上での出産は2,756例であり、全体の28.6%となっている。

合併症妊娠ではGDMを含む糖尿病が最も多く237例となっている。産科合併症は切迫早産・前期破水が1,076例で最も多い。

(例)

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	市立奈良	病院 (左5病院除く)	診療所	助産所	合計
分娩様式	総分娩数	931	475	202	446	510	1,614	5,213	205	9,596
	経膈分娩	607	323	129	372	338	1,240	4,275	205	7,489
	帝王切開	324	152	73	74	172	374	938	-	2,107
	うち予定	170	79	39	52	102	229	504	-	1,175
	うち緊急	154	73	34	22	70	145	434	-	932
	帝王切開率(%)	34.8	32.0	36.1	16.6	33.7	23.2	18.0	-	22.0
分娩週数 (死産児は除く)	35週未満	76	53	9	-	-	1	-	-	139
	35週	27	26	5	3	3	8	12	-	84
	36週	46	24	5	14	18	33	94	-	234
	37週	129	107	24	50	63	195	414	12	994
	38週	221	96	57	112	146	354	1,203	44	2,233
	39週	182	90	46	140	124	493	1,610	68	2,753
	40週	182	76	41	97	125	424	1,384	62	2,391
	41週	64	19	15	29	28	102	447	19	723
	42週	2	1	-	-	1	-	25	-	29
42週以上	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
出生体重 (死産児は除く)	1,500g未満	38	15	-	-	-	-	-	-	53
	1,500-1,999g	48	35	6	2	1	3	6	-	101
	2,000-2,499g	143	87	25	33	35	97	247	2	669
	2,500g以上	753	355	172	411	472	1,512	4,942	203	8,820

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	市立奈良	病院 (左5病院除く)	診療所	助産所	合計
出産時年齢	35歳未満	614	293	111	304	373	1,169	3,877	146	6,887
	35-39歳	249	149	74	114	107	359	1,099	50	2,201
	40-44歳	103	50	16	26	28	81	226	9	539
	45歳以上	2	3	1	1	2	1	6		16
合併症妊娠	子宮筋腫	67	32	11	10	26	20	47	5	218
	子宮筋腫(核出術後)	-	8	-	2	-	8	12	-	30
	卵巣嚢腫(腫瘍)	20	6	21	11	6	8	19	3	94
	子宮頸癌(含円錐切除後)	15	4	6	-	2	2	10	-	39
	子宮奇形	4	2	-	4	1	-	1	-	12
	甲状腺機能亢進症	13	8	4	4	3	5	13	-	50
	甲状腺機能低下症	35	28	13	4	10	20	28	-	138
	糖尿病(含GDM)	67	32	21	30	30	17	40	-	237
	喘息	19	10	12	4	9	10	46	-	110
	慢性腎炎	1	4	-	1	-	2	1	-	9
	本態性高血圧	13	2	-	1	3	-	-	-	19
	ITP	-	-	2	1	-	-	1	-	4
	自己免疫疾患	14	2	-	7	1	3	4	-	31
	循環器疾患	-	8	6	6	2	2	1	-	25
	精神科疾患(含てんかん)	25	34	-	7	11	6	5	-	88
	ウイルス性肝炎 (HA, HB, HCなど)	5	2	-	-	-	2	5	-	14
	消化器疾患 (虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	8	2	15	-	-	12	6	-	43
	その他	-	-	-	-	-	7	7	-	14
産科合併症 (重複あり)	切迫早産・前期破水	177	140	90	93	201	217	146	12	1,076
	妊娠高血圧症候群	63	36	9	7	9	59	55	-	238
	胎内胎児発育制限	52	28	13	4	35	10	82	-	224
	多胎妊娠	55	24	3	3	2	5	1	-	93
	前置胎盤	21	8	-	4	1	3	-	-	37
	産後出血	-	-	26	-	16	19	75	1	137
	子癇	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	弛緩出血	91	50	1	44	10	100	-	-	296
	常位胎盤早期剥離	12	6	4	4	2	5	9	-	42
	HELLP症候群	5	1	-	-	1	5	1	-	13
	低置胎盤	19	4	1	-	-	2	15	-	41
	血液型不適合	13	8	9	-	4	8	13	-	55
	羊水過多	7	2	4	-	-	1	24	-	38
	羊水過小	7	2	10	1	1	-	38	-	59
	胎児異常	20	3	6	-	3	6	7	-	45
その他	-	-	-	-	-	1	2	-	3	
産科手術他	子宮頸管縫縮術	12	3	-	2	5	3	10	-	35
	卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	-	3	-	-	-	13	1	-	17
	産道血腫除去術	-	-	-	1	3	2	6	1	13
	子宮動脈塞栓術	8	-	-	-	1	-	-	-	9
	子宮摘出術	1	1	-	1	-	11	-	-	14
	その他	-	-	-	-	-	31	2	-	33
輸血治療症例	23	24	5	5	3	7	8	-	75	

(2) 小児・新生児部門診療実績

小児・新生児部門については従来通り、奈良県立医科大学附属病院（奈良医大）、奈良県総合医療センター（県総合）、近畿大学奈良病院（近大奈良）、天理よろづ相談所病院（天理よろづ）、市立奈良病院（市立奈良）からデータ集計を行った。

本調査による2017年の小児・新生児入院数は806例で、うち院内出生が660例、院外出生が146例であった。入院時疾患は呼吸器疾患が最も多く、196例であった。人工呼吸器管理症例数は181例で全体の22.6%であった。早期新生児死亡は5例、後期新生児死亡は1例で、死亡症例の詳細は下表のとおりである。新生児搬送症例数は131例で、搬送疾患名は呼吸器疾患が63例と最も多い。

施設名		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	市立奈良	合計
入院数	院内出生	377	123	49	68	43	660
	院外出生	68	54	23	1	-	146
入院時疾患名	呼吸器疾患	61	77	12	35	11	196
	心・循環器疾患	21	7	2	2	-	32
	消化管疾患	9	2	22	1	7	41
	脳・神経疾患	6	-	1	-	2	9
	外科疾患	-	-	14	-	-	14
	染色体異常 奇形症候群	17	3	3	-	-	23
	感染症	12	5	3	14	3	37
	その他	314	46	29	20	20	429
人工呼吸器管理症例	入院数	440	177	72	68	43	800
	人工呼吸器管理症例数	101	63	15	2	0	181
	人工管理症例率 (%)	23.0	35.6	20.8	2.9	0.0	22.6
早期新生児死亡数		4	1	-	-	-	5
後期新生児死亡数		-	-	1	-	-	1
新生児搬送収容数		51	56	23	1	-	131
新生児搬送疾患名 (重複あり)	呼吸器疾患	25	32	5	1	-	63
	心・循環器疾患	11	4	1	-	-	16
	消化管疾患	5	2	13	-	-	20
	脳・神経疾患	1	-	-	-	-	1
	染色体異常 奇形症候群	3	2	2	-	-	7
	感染症	3	3	-	-	-	6
	その他	11	13	3	-	-	27

死亡例一覧

病院	性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
奈良医大	女	22週0日	481g	0日	超低出生体重児 遷延性肺高血圧症 脳室内出血
	女	27週6日	554g	4日	超低出生体重児 敗血症
	男	27週0日	500g	285日	超低出生体重児 壊死性腸炎 短腸症候群 胆汁うっ滞性肝機能障害
	女	32週1日	1,358g	0日	極低出生体重児 双胎児間輸血症候群
	女	35週1日	1,854g	179日	ダウン症 遷延性肺高血圧症 ASD VSD PDA
	男	37週5日	1,432g	105日	18トリソミー 食道閉鎖 敗血症 ASD VSD
	女	37週5日	1,460g	166日	18トリソミー 食道閉鎖 ショーン複合
	女	37週3日	2,224g	47日	タナトフォリック骨異形成症
	男	37週6日	2,380g	1日	先天性横隔膜ヘルニア
	男	38週6日	3,070g	156日	小腸閉鎖 絞扼性イレウス 敗血症
県総合	男	42週3日	4336g	0日	新生児遷延性肺高血圧症
	女	38週0日	1,777g	137日	肺高血圧症・心室中隔欠損症
近大	女	37週	1,920g	24日	13トリソミー

※入院中の死亡ではない

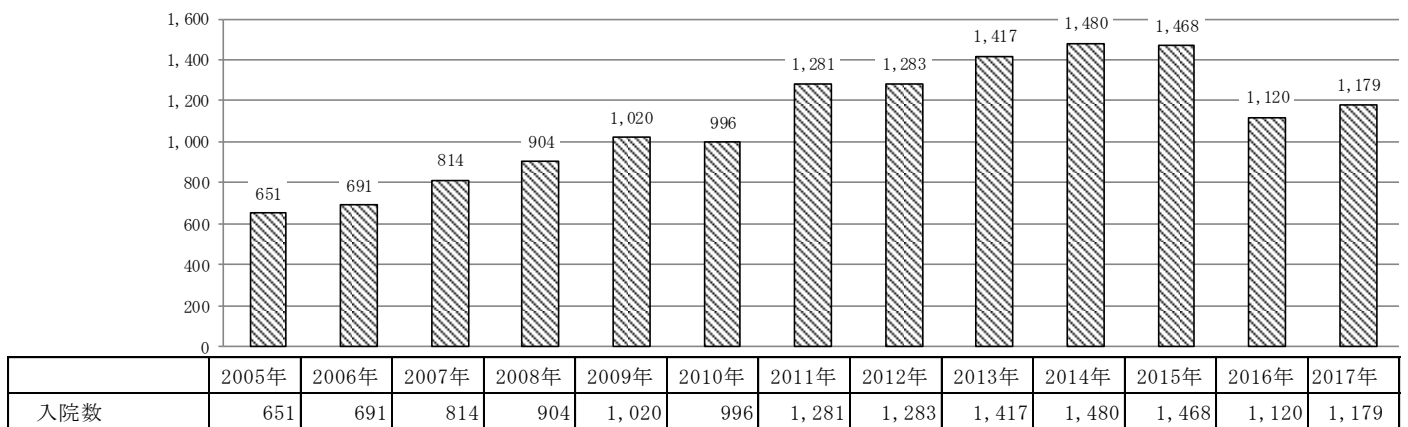
当院退院後（NICU、小児科病棟から退院後）、自宅で死亡。当院で確認。NICU入院歴ありの児。

2. 奈良県立医科大学附属病院

(1) 産科部門診療実績

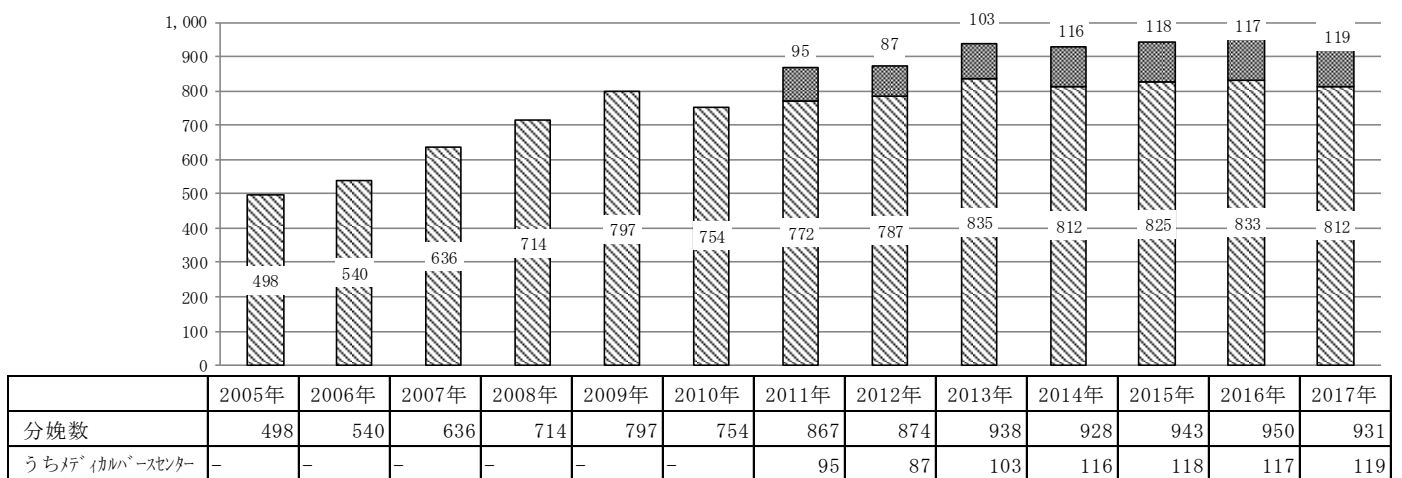
◆ 入院数（例）

2017年の奈良医大附属病院産科病棟への入院患者数は、新病棟への移転による制限のあった2016年に比べやや増加した。



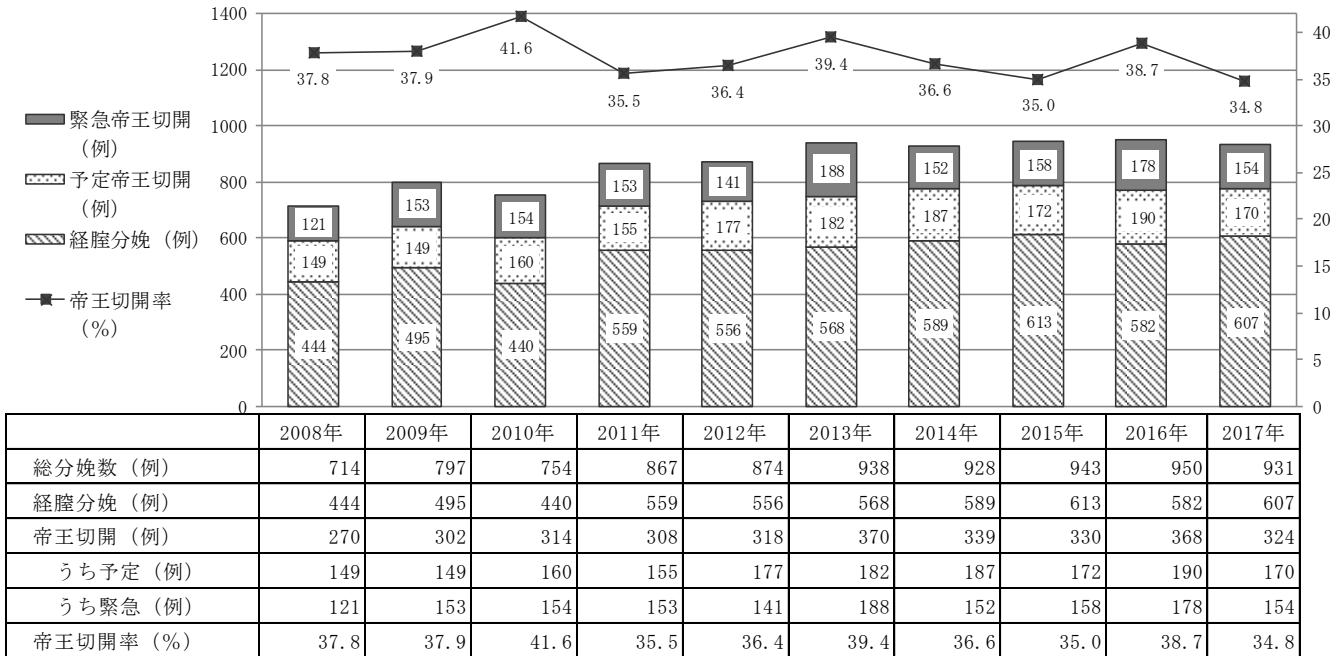
◆ 分娩数（例）

2017年の奈良医大附属病院の分娩数は2016年に比べ若干減少した。正常分娩を担当するため設置されたメディカルバースセンターでの分娩数は年100件程度で横ばいである。



◆ 分娩様式

分娩方法については大きな変化はない。帝王切開率は約 35%であり、総合周産期センターとしては低めに抑えられている。帝王切開については麻酔科・中央手術部の十分な協力を得て、24 時間体制で超緊急帝王切開に至るまで制約なく施行できている。



◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

分娩週数について、28 週以前での娩出は 22 件と、前年の 14 件より増加している。また、30～35 週での娩出も増加傾向であった。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
22週	2	2	1	-	-	-	2	3	1	2
23週	3	-	-	1	2	2	1	2	1	1
24週	2	-	3	2	-	2	3	5	2	4
25週	3	3	-	2	1	4	1	1	2	3
26週	4	4	6	1	-	1	5	2	3	4
27週	4	10	3	1	3	2	3	2	1	7
28週	2	3	5	7	5	5	4	8	4	1
29週	1	4	8	4	7	4	4	2	6	-
30週	5	5	5	6	3	3	3	4	3	5
31週	4	11	9	13	5	4	7	6	7	8
32週	11	19	10	11	9	16	7	9	8	11
33週	12	15	18	9	14	20	11	10	8	10
34週	15	23	20	14	21	22	8	10	21	20
35週	31	30	38	39	30	33	24	33	15	27
36週	65	55	41	59	54	54	41	77	62	46
37週	57	56	110	105	115	106	156	159	174	129
38週	151	182	150	159	198	246	208	209	225	221
39週	145	137	153	191	167	172	202	182	220	182
40週	150	162	112	157	172	183	168	203	177	182
41週	54	75	57	68	54	45	51	58	64	64
42週	3	1	5	3	1	-	-	4	1	2
不明	-	-	-	-	2	3	-	5	2	2

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

1,500g未満の極低出生体重児の入院数は38例と、ここ数年ほぼ横ばいである。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
500g未満	4	2	2	-	3	-	5	7	3	9
500-999g	14	17	12	12	11	19	15	19	15	9
1,000-1,499g	15	20	26	26	16	27	25	13	20	20
1,500-1,999g	54	62	74	58	57	60	45	48	40	48
2,000-2,499g	143	219	148	155	129	165	136	137	135	143
2,500g以上	546	521	537	666	690	732	748	770	763	753

◆ 出産時年齢（例）

出産時年齢については40歳以上が増加しており、生殖補助技術の発展により、45歳を超える超高齢での出産も数例あった。

2013年12月から当院では母体血を用いた非侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT）を行っており、35歳以上の妊婦で希望する方は受検することができる。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
35歳未満	593	632	644	610	636	614
35-39歳	212	239	225	250	240	249
40-44歳	68	64	56	79	72	103
45歳以上	1	3	4	4	2	2

◆ 合併症妊娠（例）

合併症妊娠の内訳には大きな変化はない。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮筋腫	-	-	-	-	-	69	52	49	36	67
子宮筋腫（核出術後）	29	36	37	32	49	16	6	5	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	5	10	8	15	8	26	22	25	25	20
子宮頸癌（含円錐切除後）	5	4	7	11	7	9	7	9	-	15
子宮奇形	5	4	4	7	4	4	2	4	3	4
甲状腺機能亢進症	13	11	7	13	18	17	8	14	9	13
甲状腺機能低下症	7	6	6	11	6	11	17	14	17	35
糖尿病（含GDM）	23	12	15	31	28	39	45	54	62	67
喘息	15	11	14	24	26	49	19	25	28	19
慢性腎炎	6	6	7	5	7	3	1	12	4	1
本態性高血圧	9	6	4	12	9	16	12	12	13	13
ITP	5	4	6	7	5	9	-	-	-	-
自己免疫疾患	6	10	6	17	12	11	14	10	9	14
循環器疾患	8	10	10	15	14	8	17	14	-	-
精神科疾患（含てんかん）	26	35	29	48	43	58	47	49	43	25
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	7	11	7	14	10	6	9	11	5	5
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	8	6	5	17	6	8	13	12	20	8

2013年：筋腫に核出術後含む

◆ 産科合併症（例 重複あり）

2017年には切迫早産・前期破水の入院例が増加した。2016年に病棟移転のため搬送応需を制限していたことが関係している可能性がある。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	139	165	182	188	164	151	131	109	115	177
妊娠高血圧症候群	53	73	69	66	52	51	49	49	51	63
胎内胎児発育制限	43	59	64	51	51	36	45	31	28	52
多胎妊娠	69	58	56	60	46	76	56	51	66	55
前置胎盤	20	21	26	27	28	20	14	21	16	21
産後出血	18	17	17	30	23	12	24	10	21	-
子癇	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
弛緩出血	-	-	-	-	-	-	-	-	142	91
常位胎盤早期剥離	9	13	9	23	11	9	15	10	18	12
HELLP症候群	4	3	3	5	8	4	6	4	-	5
低置胎盤	14	12	16	19	12	15	12	6	13	19
血液型不適合	11	12	9	20	20	27	11	12	18	13
羊水過多	6	5	9	11	11	8	8	7	7	7
羊水過小	4	7	5	8	6	9	14	9	7	7
胎児異常	36	34	50	56	53	25	28	-	36	20

※弛緩出血については2015年以前は未集計

◆ 産科手術他（例）

産科手術については大きな変化はない。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮頸管縫縮術	13	12	7	7	15	11	8	14	12	12
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	6	5	5	5	1	1	3	-	-
産道血腫除去術	4	5	4	9	1	5	8	1	-	-
子宮動脈塞栓術	3	5	6	6	6	8	5	3	1	8
子宮摘出術	2	2	2	2	-	3	4	4	2	1
胎児胸腹水穿刺	1	3	4	5	1	-	-	-	-	-
羊水除去	1	1	2	4	2	-	-	-	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

2017年は輸血治療例が増加した。当院では輸血について十分なストックがあり、不足分については血液センターからの取り寄せについても輸血部から即時依頼が可能である。下記の症例数は同種血輸血のみであり、自己血輸血は含まない。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
輸血治療症例数	15	12	12	34	19	20	22	9	9	23

◆ NICU 収容症例数（例）

NICU 症例数についてはここ数年大きく増加している。2016年の病棟移転に伴い、これまで産科病棟で対応していた症例をNICU・GCUに収容できるようになったことが大きい。これまで以上に新生児科にかかる負担が大きく、スタッフの確保と予算が必須である。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
NICU収容症例数	115	140	151	128	111	147	131	110	195	377

◆ 多胎妊娠（例）

多胎妊娠数については横ばいである。生殖補助医療（ART：体外受精など）による双胎が日本産科婦人科学会による受精卵移植数制限の会告以降、増加に歯止めがかかっているが、ハイリスク妊婦として当院に集約化される傾向にある。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
双胎	66	57	56	59	43	75	56	50	66	55
うちMD	26	20	18	34	15	24	19	37	20	22
うちDD	40	37	38	25	28	51	37	11	45	33
うち不明	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
三胎	3	1	-	1	-	1	-	1	1	2

◆ 母体搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

救急母体搬送数は2014年以降、それまでに比べて減少しているが、搬送の応需率・MFICU収容患者数に変動がないことから、県内他院からハイリスク症例について事前に外来レベルで紹介されていることが大きな要因であると推定できる。母体救命のための搬送は病床の状況を問わず全例収容している。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
母体搬送収容数	83	130	153	146	157	156	107	125	106	127

◆ 母体搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

母体搬送疾患の内訳については2013年にシステムによる集計を用い始めて以降、大きな差異はない。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	48	68	89	75	77	87	49	56	44	62
妊娠高血圧症候群	12	17	27	17	22	13	7	10	5	9
胎内胎児発育制限	6	11	16	5	15	7	1	3	3	-
産後出血	11	10	11	15	15	6	16	12	12	20
胎児機能不全	10	10	12	9	15	8	2	1	4	3
常位胎盤早期剥離	5	10	4	14	9	11	8	8	7	3
前置胎盤	3	5	6	2	7	5	2	5	1	7
多胎	1	4	5	3	2	11	2	4	1	-
HELLP症候群	3	3	3	2	6	3	4	3	1	2
胎児奇形	2	3	6	1	1	-	3	1	1	2
その他	13	18	22	17	13	61	13	22	30	17

◆ 胎児異常（例）

胎児異常の例数は2016年までにくらべて減少した。

疾患名	2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
cystic hygroma	4	4	1	1	4	4	6	6	3	3	1	1
18トリソミー	3	2	3	2	-	-	3	3	4	3	1	1
髄膜瘤	2	2	1	1	-	-	3	2	1	1	-	-
21トリソミー	6	3	4	-	7	5	3	1	4	2	3	3
手指異常（合指／多指）	-	-	2	-	1	-	3	-	2	-	-	-
脳室拡大	2	2	5	5	6	6	2	2	2	2	-	-
先天性横隔膜ヘルニア	1	1	-	-	1	1	2	2	-	-	1	1
心室中隔欠損	3	1	1	1	2	1	2	1	5	2	-	-
仙尾部奇形腫	1	1	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-
胎児水腫	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-
骨系統性疾患	1	1	3	2	-	-	1	1	1	1	1	1
小腸閉鎖	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1
無頭蓋症	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-
尿道下裂	-	-	2	1	3	-	1	-	-	-	-	-
口唇裂・口蓋裂	3	2	3	2	1	1	-	-	5	5	-	-
不整脈	3	3	4	4	1	1	-	-	-	-	-	-
胸腹水	3	3	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-
無脳症	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ファロー四徴症	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
水腎症	2	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
两大血管右室起始	2	2	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-
大血管転位	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鎖肛	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
心臓腫瘍	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
十二指腸閉鎖	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
先天性嚢胞性腺腫様奇形	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-
Dandy-Walker奇形	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
大脳半球間裂嚢胞	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳瘤	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
気管軟化症	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
尿道閉鎖	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Treacher-Collins症候群	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全前脳胞症	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
総排泄腔遺残	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-
腹壁破裂	-	-	1	1	2	2	-	-	2	2	-	-
筋ジストロフィー	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
染色体微小欠失	-	-	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-
片腎欠損	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Potter sequence	-	-	1	1	1	1	-	-	1	1	-	-
食道閉鎖	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳梗塞	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
尿管遺残	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
無眼球症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
脳梁欠損	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-
大動脈離断症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
大動脈縮窄	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
硬膜下血腫	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
血管腫	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
脳腫瘍	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
脳出血	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-

◆ MFICU 入院患者数（例）

MFICU 入院患者については 2016 年に病棟移転による制限に伴い母体搬送例が減少したが、2017 年には母体搬送例及び院内で外来から収容される例と共に増加した。

◆ MFICU 入院適応（例）

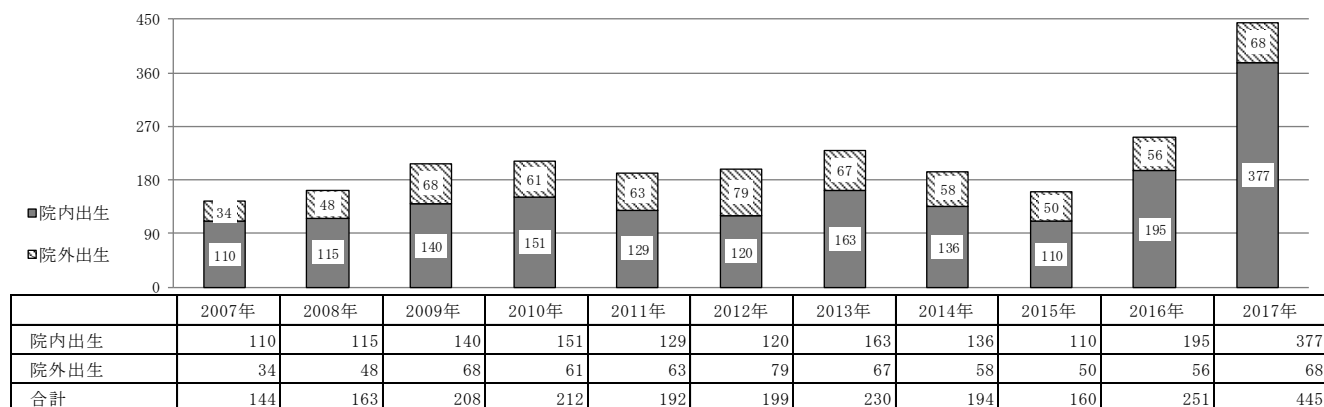
MFICU の入院適応については大きな変化がない。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
切迫早産	40	88	99	81	82	89	66	63	56	78
妊娠高血圧症候群	18	28	30	35	31	24	16	14	21	26
産後出血	7	13	14	23	20	18	25	11	18	28
常位胎盤早期剥離	2	8	5	19	8	11	13	11	9	6
胎内胎児発育不全	9	15	18	15	19	12	2	8	10	5
前置胎盤	7	13	17	14	11	13	8	10	8	16
双胎	6	12	8	7	4	15	10	6	8	6
HELLP症候群	2	3	3	5	8	4	4	4	3	4
胎児異常	6	4	4	2	3	5	6	2	3	1
肺水腫	5	2	3	2	3	3	-	-	2	1
合併症妊娠	5	13	20	25	36	18	5	6	5	7
その他	10	7	5	3	3	3	-	17	12	14

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)

2017年の総入院数は445例(再入院5例)で、院内出生は377例、院外出生は68例であった。2016年9月の病棟移転による病床数増加に伴い、入院数は著明に増加した。



◆ 入院時疾患名 (例)

病棟移転に伴い、産科の新生児入院病床が無くなり、1,800~2,300gの低出生体重児、黄疸の光線治療、低血糖や哺乳不良などの点滴治療、母体精神疾患や内分泌異常の母体から出生した児のモニタリング目的の入院が増加した。

	2013	2014	2015	2016	2017
心・循環器疾患	5	10	5	13	21
動脈管開存症	-	-	-	-	4
大動脈肺動脈窓	1	-	-	-	-
左心低形成	1	1	-	-	-
左室緻密化障害	-	1	-	-	-
WPW症候群	1	-	-	-	-
不整脈	1	-	-	1	6
VSD ASD	1	-	-	-	-
大動脈縮窄症	-	2	1	1	1
大動脈離断	-	-	-	-	1
右大動脈弓	-	-	-	-	1
Fallot四徴症	-	2	-	1	1
心室中隔欠損	-	1	-	2	2
先天性動脈管開存症	-	1	1	-	-
総動脈管症	-	-	-	-	1
総肺静脈還流異常症	-	-	-	1	-
两大血管右室起始	-	1	-	2	-
完全大血管転位	-	-	-	1	2
心房粗動	-	1	-	-	-
Ebstein奇形	-	-	-	2	-
血管輪	-	-	2	-	-
右側相同	-	-	1	-	-
左側相同	-	-	-	1	-
内臓逆位	-	-	-	1	-
その他	-	-	-	-	2

	2013	2014	2015	2016	2017
脳・神経疾患	11	12	3	8	6
脳梗塞	1	-	-	-	-
髄膜瘤	1	1	2	1	-
脳室拡大	2	-	-	-	-
頭蓋内出血	1	-	-	-	-
帽状腱膜下血腫	1	-	1	1	-
新生児痙攣	2	-	-	3	2
筋緊張性ジストロフィー	3	-	-	-	-
硬膜下血腫	-	3	-	-	-
脊髄脂肪腫	-	2	-	-	-
てんかん	-	2	-	-	-
脈絡叢乳頭癌	-	1	-	-	-
脳梁欠損	-	1	-	-	-
水頭症	-	1	-	3	2
脳嚢胞	-	-	-	-	1
頭蓋骨早期癒合症	-	-	-	-	1
Dandy-Walker症候群	-	1	-	-	-
感染症	2	2	3	4	12
新生児感染症	2	2	-	2	10
新生児TTS様発疹症	-	-	1	-	-
先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	1	2	2
細菌性髄膜炎	-	-	1	-	-

次ページへつづく

		2013	2014	2015	2016	2017	
呼吸器疾患		38	40	38	28	61	
内訳	新生児一過性多呼吸	21	22	20	15	44	
	呼吸窮迫症候群	1	4	4	-	2	
	胎便吸引症候群	2	1	1	6	1	
	新生児無呼吸発作	7	5	4	1	6	
	気胸	2	3	3	4	5	
	先天性横隔膜ヘルニア	-	2	3	-	1	
	先天性横隔神経麻痺	-	-	-	-	-	
	縦隔気腫	1	-	-	-	-	
	心嚢気腫	1	-	-	-	-	
	先天性乳び胸	1	-	1	1	-	
	声門下狭窄	1	-	-	-	-	
	CCAM	1	-	-	-	-	
	披裂部喉頭軟化症、気管軟化症	-	-	-	-	1	
	出血性肺浮腫	-	2	1	1	-	
	肺リンパ嚢胞	-	1	-	-	-	
	誤嚥性肺炎	-	-	-	-	1	
	間質性肺炎	-	-	1	-	-	
	染色体異常 奇形症候群		17	9	12	17	17
	内訳	Down症候群	5	2	3	6	7
		18トリソミー	2	-	1	-	3
13トリソミー		1	-	-	2	-	
5p-症候群		-	-	-	1	-	
22q11.2症候群		-	-	-	1	-	
10番染色体不均衡転座		-	-	-	1	-	
口唇口蓋裂		2	1	1	-	1	
GRE1Ceephalopolysyndactyly syndrome		1	-	-	-	-	
Jarcot-Levine syndrome		1	-	-	-	-	
Juberg-Hayward syndrome		1	-	-	-	-	
Prader-Willi症候群		-	1	1	1	-	
コステロ症候群		-	-	1	-	-	
noonan症候群		-	-	1	-	-	
タウンズブロックス症候群		-	-	-	1	-	
VACTERL連合		-	-	-	-	1	
奇形症候群		2	-	-	-	-	
仙骨部皮膚洞		1	-	-	-	-	
傍尿道のう腫		1	-	-	-	-	
結節性硬化症		-	1	-	-	-	
尿道下裂		-	1	1	-	-	
低形成異形成腎		-	1	-	-	-	
多嚢胞性異形成腎		-	-	-	2	1	
左反張膝		-	1	-	-	-	
仙尾部奇形腫		-	1	-	-	1	
タナトフォリック骨異形成症		-	-	1	-	1	
小顎症		-	-	1	1	1	
尿膜管遺残症		-	-	1	-	-	
陰核肥大		-	-	-	1	-	
重複脛		-	-	-	-	1	

		2013	2014	2015	2016	2017
消化管疾患		11	20	7	10	9
内訳	新生児嘔吐症	4	9	1	2	2
	哺乳不良	-	-	-	1	1
	腸回転異常症	1	1	-	1	-
	鎖肛	3	2	1	-	1
	新生児メレナ	1	1	2	-	-
	Hirshsprung病	1	2	2	-	-
	腹壁破裂	1	1	-	1	-
	臍帯ヘルニア	-	-	-	2	1
	臍尿瘻	-	1	-	-	-
	肛門異所性開口	-	1	-	-	-
	血便	-	-	-	-	-
	胃軸捻転	-	1	-	-	-
	急性胃粘膜病変	-	1	-	-	1
	食道閉鎖	-	-	-	1	-
	小腸十二指腸閉鎖	-	-	-	-	-
	小腸閉鎖	-	-	1	2	1
	結腸閉鎖	-	-	-	-	1
	胃食道逆流	-	-	-	-	1
ミルクアレルギー	-	-	1	-	-	
その他		141	96	89	165	314
内訳	低出生体重児 (1,500-2,499g)	78	33	38	70	126
	極低出生体重児 (1,000-1,499g)	24	23	11	24	21
	超低出生体重児 (<1,000g)	22	22	20	19	18
	早産児	2	1	-	-	7
	新生児仮死	7	8	8	15	7
	sleeping baby	-	-	2	1	-
	新生児高ビリルビン血症	3	5	-	17	70
	新生児臍炎	-	-	1	-	-
	新生児Basedow病	2	-	-	1	7
	リンパ管腫	-	-	1	-	1
	一過性甲状腺機能低下症	-	1	-	2	9
	ランゲルハンス細胞組織球症	-	-	-	-	1
	胎児母体間輸血症候群	1	1	-	-	-
	血友病Bの疑い	1	-	-	-	-
	Upshaw-Schulman症候群	-	1	-	-	-
	ホモシスチン尿症	-	1	-	-	-
	低血糖症	-	-	2	3	21
	高インスリン性低血糖	-	-	1	-	-
多血症	-	-	-	-	4	
ABO血液型不適合溶血	-	-	2	-	-	
球状赤血球症	-	-	1	1	-	
先天性血管拡張性大理石様皮斑	-	-	1	-	-	
左耳出血	-	-	-	-	1	
新生児薬物離脱症候群	-	-	-	8	18	
墜落分娩	1	-	1	4	3	

◆ 出生週数（例）

28週未満の入院は19例とほぼ横ばいで、36週以上の入院は319例と2016年に比べ、ほぼ倍増した。

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
22週	-	3	2	1	-	-	-	2	1	3	1
23週	-	3	1	-	1	3	3	2	1	2	2
24週	2	3	-	3	2	-	3	4	6	3	3
25週	1	3	3	-	2	2	4	3	1	2	2
26週	5	6	5	6	1	-	2	5	1	3	6
27週	2	4	10	3	2	5	2	4	3	2	5
28週	2	1	5	8	6	5	6	6	7	5	1
29週	2	2	3	8	3	7	5	4	2	6	-
30週	9	3	5	4	5	3	7	3	4	5	5
31週	7	5	11	9	16	6	5	8	6	7	13
32週	12	8	19	13	13	9	18	8	8	10	16
33週	13	12	15	20	10	15	27	15	10	8	11
34週	16	16	24	22	15	24	28	8	11	22	24
35週	13	15	15	10	15	9	17	13	14	12	32
36週	7	11	10	9	14	18	14	15	13	20	39
37週以上	53	68	80	95	87	93	84	89	70	135	280

◆ 出生時体重（例）

1,500g未満の極低出生体重児の入院数は40例とほぼ横ばいで、1,500～2,500gの低出生体重児は160例と2016年に比べ、約1.5倍に増加した。

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
500g未満	1	4	2	2	-	3	-	5	1	3	3
500-749g	5	7	8	7	5	4	10	9	10	8	9
750-999g	6	9	13	6	7	10	13	8	9	9	6
1,000-1,249g	8	7	9	12	8	9	12	7	3	9	7
1,250-1,499g	16	7	10	13	18	10	16	16	10	15	15
1,500-1,749g	17	16	31	30	24	18	21	14	14	14	20
1,750-1,999g	21	23	27	33	19	23	33	14	18	26	34
2,000-2,249g	13	16	19	15	21	18	21	10	16	24	53
2,250-2,499g	11	13	16	20	15	22	26	21	15	31	53
2,500g以上	46	61	73	74	75	82	73	85	62	106	240

◆ 人工呼吸器管理症例

入院数の増加に伴い人工管理症例率は低下しているが、人工呼吸管理症例数はほぼ横ばいで毎年100例前後が人工呼吸管理を行っている。

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
入院数(例)	144	163	208	212	192	199	230	194	160	251	440
人工呼吸器管理症例数(例)	55	73	98	105	85	97	99	105	91	94	101
人工管理症例率(%)	38.2	44.8	47.1	49.5	44.3	48.7	43.0	54.1	56.9	37.5	23.0

◆ 外科疾患（心臓、眼科、脳外科など含む）

手術症例は 25 例であった。

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
女	24週	426g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
女	26週	507g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
女	23週	514g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
男	24週	529g	超低出生体重児 出血後水頭症 未熟児網膜症	脳室外ドレナージ レーザー光凝固術
男	24週	529g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
女	27週	554g	超低出生体重児 壊死生腸炎	小腸切除術
女	25週	704g	超低出生体重児 出血後水頭症 未熟児網膜症	脳室外ドレナージ レーザー光凝固術
男	25週	811g	超低出生体重児 動脈管開存症 壊死生腸炎	動脈管閉鎖術 人工肛門造設術
男	27週	851g	超低出生体重児 出血後水頭症	脳室外ドレナージ
男	31週	1,004g	極低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
男	37週	1,432g	18トリソミー 食道閉鎖	胃瘻造設
女	37週	1,460g	18トリソミー 食道閉鎖	胃瘻造設
女	36週	1,660g	低出生体重児 心室中隔欠損 心房中隔欠損 左上大静脈遺残	肺動脈絞扼術
男	37週	1,982g	ダウン症 動脈管開存症	動脈管閉鎖術
男	38週	2,354g	ダウン症 ファロー四徴症	右室流出路形成術 動脈管閉鎖術
女	38週	2,642g	VACTERL連合	肺動脈絞扼術
男	38週	2,828g	心室中隔欠損症	肺動脈絞扼術
女	37週	2,938g	動脈管開存症	動脈管閉鎖術
男	39週	2,960g	クモ膜嚢胞	嚢胞開窓術
男	38週	3,070g	小腸閉鎖	小腸吻合術
女	41週	3,106g	先天性水頭症	脳室開窓術
男	39週	3,114g	ファイファー症候群	気管切開
女	40週	3,140g	完全大血管転移症 I 型	Jatene術
男	38週	3,216g	ダウン症 心房中隔欠損症	心房中隔欠損閉鎖術
男	40週	3,476g	横行結腸閉鎖	人工肛門造設術

◆ 血液浄化症例

血液浄化症例は敗血症の全血交換輸血が 2 例、多血の部分交換が 2 例、重症黄疸による全血交換輸血が 1 例であった。

出生週数	出生体重	適応疾患	治療法
38週6日	3,070g	小腸閉鎖 敗血症	全血交換輸血
27週6日	554g	超低出生体重児 敗血症	全血交換輸血
40週0日	2,560g	多血症	部分交換輸血
38週5日	3,398g	黄疸	全血交換輸血
36週6日	2,310g	多血症	部分交換輸血

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

出生週数22週の生存率は0%であったが、23週～28週の生存率は94.7%であった。

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）
22週	-（- / -）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）	33.3（1 / 3）	0.0（0 / 1）
23週	100.0（3 / 3）	100.0（2 / 2）	0.0（0 / 1）	50.0（1 / 2）	100.0（2 / 2）
24週	66.7（2 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（6 / 6）	100.0（3 / 3）	100.0（3 / 3）
25週	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	100.0（2 / 2）
26週	100.0（2 / 2）	80.0（4 / 5）	100.0（1 / 1）	100.0（3 / 3）	100.0（6 / 6）
27週	50.0（1 / 2）	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	50.0（1 / 2）	80.0（4 / 5）
28週	100.0（6 / 6）	83.3（5 / 6）	85.7（6 / 7）	100.0（5 / 5）	100.0（1 / 1）
29週	100.0（5 / 5）	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）	100.0（6 / 6）	-（- / -）
30週	100.0（7 / 7）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（5 / 5）	100.0（5 / 5）
31週	100.0（5 / 5）	100.0（8 / 8）	100.0（6 / 6）	100.0（7 / 7）	100.0（13 / 13）
32週	94.4（17 / 18）	100.0（8 / 8）	100.0（8 / 8）	90.0（9 / 10）	93.8（15 / 16）
33週	100.0（27 / 27）	100.0（15 / 15）	100.0（10 / 10）	100.0（8 / 8）	100.0（11 / 11）
34週	100.0（28 / 28）	100.0（8 / 8）	100.0（11 / 11）	100.0（22 / 22）	100.0（24 / 24）
35週	100.0（17 / 17）	100.0（13 / 13）	100.0（14 / 14）	100.0（12 / 12）	100.0（32 / 32）
36週	100.0（14 / 14）	100.0（15 / 15）	92.3（12 / 13）	100.0（20 / 20）	100.0（39 / 39）
37週以上	97.6（82 / 84）	98.9（88 / 89）	98.6（69 / 70）	100.0（135 / 135）	99.6（279 / 280）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存数（例）

出生体重500g未満の生存率は66.7%で500～1,000gの生存率は93.3%であった。

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）
500g未満	-（- / -）	60.0（3 / 5）	100.0（1 / 1）	33.3（1 / 3）	66.7（2 / 3）
500-749g	90.0（9 / 10）	100.0（9 / 9）	80.0（8 / 10）	87.5（7 / 8）	88.9（8 / 9）
750-999g	92.3（12 / 13）	100.0（8 / 8）	100.0（9 / 9）	100.0（9 / 9）	100.0（6 / 6）
1,000-1,249g	100.0（12 / 12）	100.0（7 / 7）	100.0（3 / 3）	88.9（8 / 9）	100.0（7 / 7）
1,250-1,499g	93.8（15 / 16）	100.0（16 / 16）	100.0（10 / 10）	93.3（14 / 15）	93.3（14 / 15）
1,500-1,749g	100.0（21 / 21）	100.0（14 / 14）	92.9（13 / 14）	100.0（14 / 14）	100.0（20 / 20）
1,750-1,999g	100.0（33 / 33）	100.0（14 / 14）	100.0（18 / 18）	100.0（26 / 26）	100.0（34 / 34）
2,000-2,249g	95.2（20 / 21）	100.0（10 / 10）	100.0（16 / 16）	100.0（24 / 24）	100.0（53 / 53）
2,250-2,499g	100.0（26 / 26）	95.2（20 / 21）	100.0（15 / 15）	100.0（31 / 31）	98.1（52 / 53）
2,500g以上	98.6（72 / 73）	100.0（85 / 85）	98.4（61 / 62）	100.0（106 / 106）	100.0（240 / 240）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	2	2	3	4	4
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	3	1	1	1	-

◆ 死亡例一覧

死亡例は10例で、超低出生体重児・極低出生体重児が4例のほか、ダウン症や18トリソミーなど先天異常が6例であった。

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
女	22週0日	481g	0日	超低出生体重児 遷延性肺高血圧症 脳室内出血
女	27週6日	554g	4日	超低出生体重児 敗血症
男	27週0日	500g	285日	超低出生体重児 壊死性腸炎 短腸症候群 胆汁うっ滞性肝機能障害
女	32週1日	1,358g	0日	極低出生体重児 双胎児間輸血症候群
女	35週1日	1,854g	179日	ダウン症 遷延性肺高血圧症 ASD VSD PDA
男	37週5日	1,432g	105日	18トリソミー 食道閉鎖 敗血症 ASD VSD
女	37週5日	1,460g	166日	18トリソミー 食道閉鎖 ショーン複合
女	37週3日	2,224g	47日	タナトフォリック骨異形成症
男	37週6日	2,380g	1日	先天性横隔膜ヘルニア
男	38週6日	3,070g	156日	小腸閉鎖 絞扼性イレウス 敗血症

◆ 新生児搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
新生児搬送収容数	32	52	45	62	65	57	48	45	40	51

◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

新生児搬送の疾患は呼吸障害が最も多く、ついで心疾患（疑い例やチアノーゼを含む）、動脈管開存など心・循環器疾患の症例が多かった。

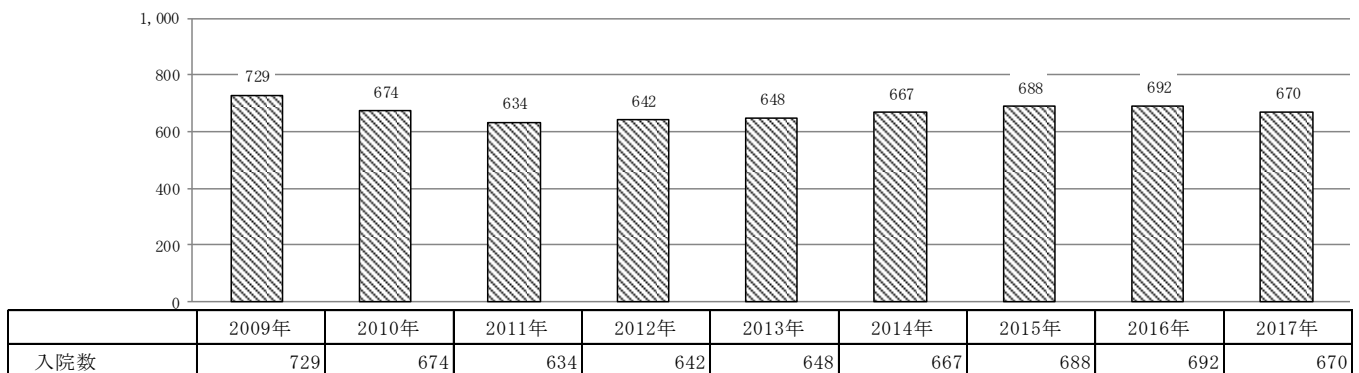
		2013	2014	2015	2016	2017	
内訳	呼吸器疾患	20	18	18	17	25	
	呼吸障害	19	17	18	17	25	
	新生児無呼吸発作	1	1	-	-	-	
	心・循環器疾患	2	3	3	7	11	
内訳	先天性心疾患	-	-	1	6	-	
	心雑音	-	1	1	1	-	
	心不全	-	1	-	-	-	
	心奇形	-	1	1	-	1	
	心奇形疑い	-	-	-	-	1	
	不整脈	2	-	-	-	1	
	動脈管開存症	-	-	-	-	5	
	総肺静脈環流異常	-	-	-	-	1	
	上室性頻拍	-	-	-	-	1	
	消化管疾患	8	9	11	1	5	
	新生児嘔吐症	2	2	2	-	-	
	胆汁性嘔吐	1	1	-	1	-	
	血便	-	2	3	-	-	
鎖肛	4	2	1	-	1		
尿道下裂	-	1	1	-	-		
肛門部奇形	-	1	-	-	-		
腹部膨満	-	-	-	2	1		
腹部腫瘍	-	-	-	-	2		
哺乳不良	1	-	2	-	-		
血性嘔吐	-	-	-	-	1		
内訳	脳・神経疾患	3	3	2	1	1	
	脊髄腫瘍	-	2	-	-	-	
	けいれん発作	2	1	1	1	-	
	帽状腱膜下血腫	1	-	1	-	-	
	脳梗塞	-	-	-	-	1	
	内訳	染色体異常 奇形症候群	5	2	3	4	3
		ダウン症	-	1	1	2	2
		奇形（症候群）	2	-	1	2	-
		口唇口蓋裂	2	-	1	-	1
		仙骨部皮膚洞	1	-	-	-	-
反跳膝		-	1	-	-	-	
感染症		-	-	3	1	3	
感染症		-	-	3	1	2	
梅毒疑い		-	-	-	-	1	
その他		18	14	14	6	11	
低出生体重児		6	1	3	-	-	
新生児仮死		2	3	4	4	3	
魚鱗癬		-	-	-	1	-	
黄疸		3	5	1	1	-	
甲状腺機能異常		-	1	-	-	-	
チアノーゼ		2	2	2	-	3	
インフルエンザ疑い		-	1	-	-	-	
多血		1	-	-	-	1	
低血糖		2	-	-	-	-	
発熱	1	-	-	-	-		
臍部の嚢胞	1	-	-	-	-		
下肢浮腫	-	1	-	-	-		
上腕骨骨折	-	-	-	-	1		
耳出血	-	-	-	-	1		
吐血	-	-	1	-	-		
性分化異常	-	-	1	-	-		
臀部腫瘍	-	-	1	-	-		
皮疹	-	-	-	-	1		
墜落産	-	-	-	-	1		
臍帯ヘルニア疑い	-	-	1	-	-		

3. 奈良県総合医療センター

(1) 産科部門診療実績

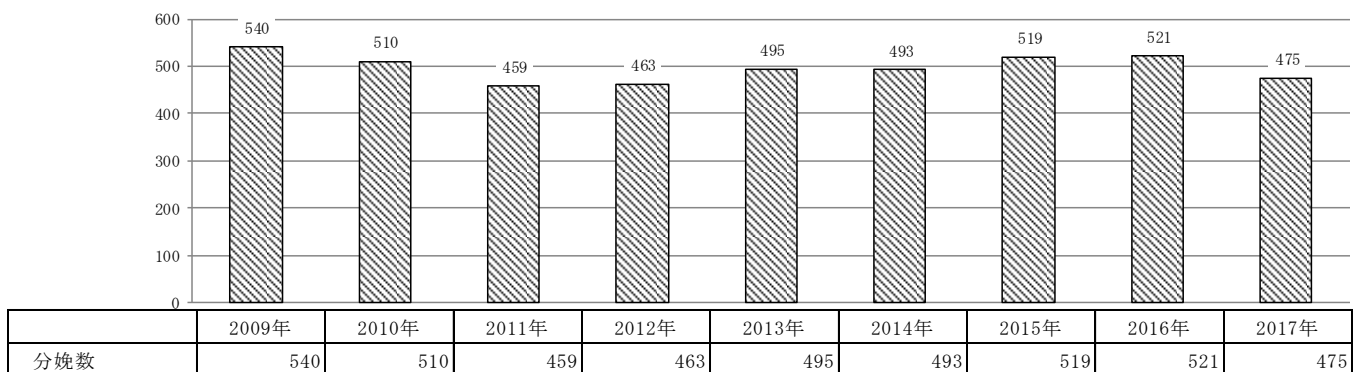
◆ 入院数（例）

入院患者数は搬送や紹介症例の増加から、2011年以降やや増加傾向にある。そのため産科病棟は緊急入院の受け入れおよび重症患者の増加による平均在院日数の延長を考慮し、2015年7月に病床数を26床から30床に増床した。これにより病床利用率はやや低下したものの、患者の受け入れ不可という事態は回避できている。切迫早産などの診断で当センターへ母体搬送された症例は、前医での受け入れが可能となる週数まで入院管理が行えた場合、患者の希望も考慮し、逆紹介により紹介元での分娩も積極的に勧めている。



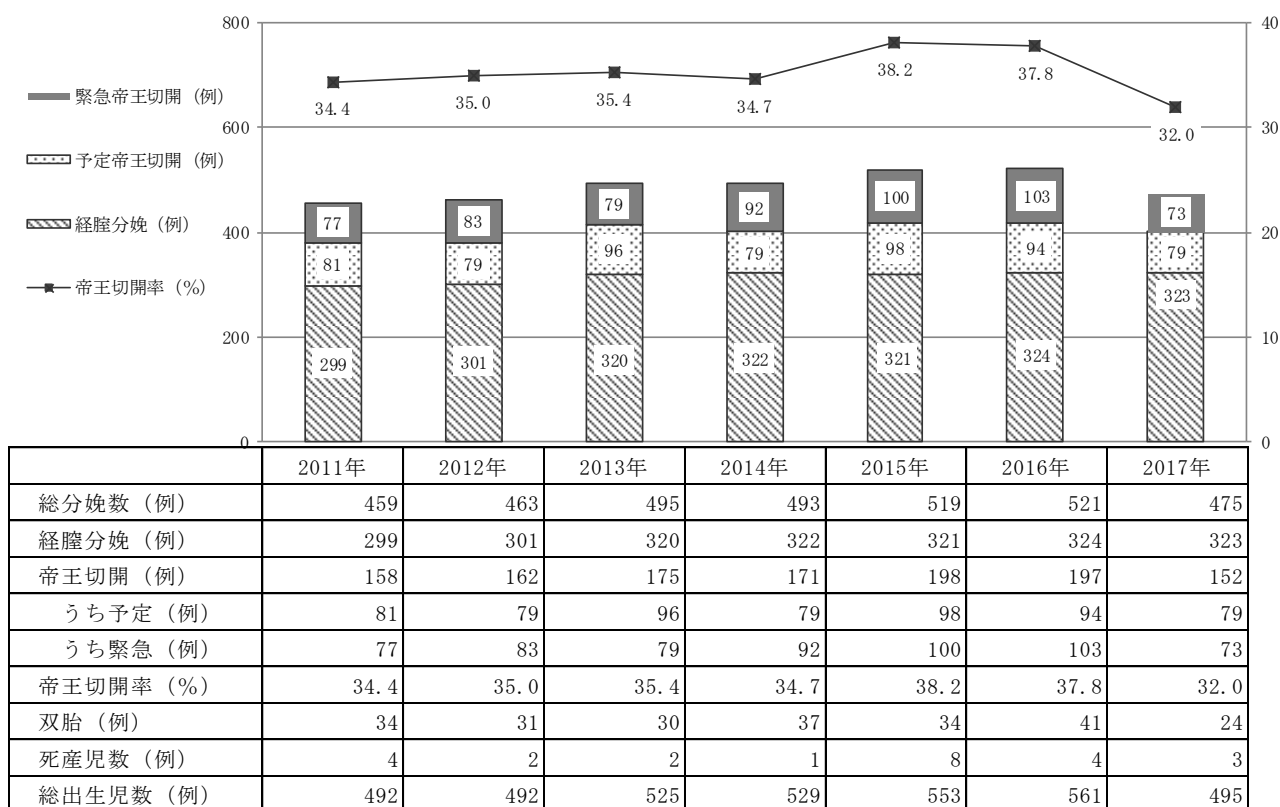
◆ 分娩数（例）

多胎妊娠も1例として表示している。2010年前期のみスタッフ不足を理由に、分娩予約数のローリスクを週8件から4件（ハイリスクは4件のまま）に半減したため、年間分娩数は一時減少した。2010年後期から、分娩予約数は週にローリスクを5件に制限しながら、ハイリスクを5件に増加した。その後はハイリスク妊娠および母体搬送の受け入れの増加に伴い、年間約500件の分娩数を維持している。ハイリスク妊婦の状態改善や妊娠36週以降までの維持管理が達成された場合、紹介元への逆紹介を積極的に行っており、その妊婦数は年間約50例におよぶ。



◆ 分娩様式

2017年の分娩様式は例年と大きな変化はない。当センターでは既往帝王切開例の分娩様式は反復帝王切開としているが、分娩予約においてはローリスク妊娠として扱っている。さらなるハイリスク妊娠の受け入れに重点を置いているため、帝王切開率は約32%と高率である。また、帝王切開症例のうち緊急帝切が48.0%を占めていた。



◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

2011年から当センターでは妊娠28週以降(児推定体重1000g以上)を、奈良医大ではそれ以前や胎児奇形などを含めた重症症例を中心に受け入れることで、2施設の役割分担を明確化した。その結果28週未満の分娩はほとんどなくなり、NICUの適切な病床運用が可能となった。一方、妊娠42週以降の過期産も数例認められ、大きな問題はなかったものの、過期産を回避する方向で妊娠管理基準を修正し、2015年以降はゼロとなった。また分娩週数の中心は妊娠37~38週であるが、2014年、2016年は37週と39週に2峰化しており、地域周産期母子医療センターとしてハイリスク妊娠が約半数を占める当センターの特徴といえる。しかしながら、妊娠リスクレベルと同時に在胎週数37週の新児の未熟性に関連する各種障害も十分考慮したうえで予定帝切日を設定する必要がある、今後さらなる修正も考えられる。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
25週	-	1	-	-	-	-	-
26週	1	-	-	2	-	-	-
27週	-	-	-	-	1	2	-
28週	-	2	2	2	4	2	3
29週	2	4	2	2	1	1	-
30週	3	5	6	4	4	5	2
31週	8	5	7	4	8	7	8
32週	8	4	11	10	10	12	4
33週	10	9	9	11	14	18	15
34週	13	18	18	22	21	24	21
35週	16	20	17	28	28	32	26
36週	27	23	29	23	43	40	24
37週	63	65	101	111	114	125	107
38週	96	108	91	73	101	96	96
39週	95	98	86	116	81	101	90
40週	85	67	85	86	83	69	76
41週	28	32	29	27	32	23	19
42週	1	2	2	6	-	-	1
42週以上	-	-	-	-	-	-	-
不明	3	-	-	1	-	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

2011年から当センターでは妊娠28週以降（児推定体重1000g以上）を、奈良医大ではそれ以前を含めた症例を中心に受け入れることと取り決めた結果から、出生体重1000g未満の分娩は年間2-3例で推移していたが、2017年は1例もなかった。分娩時週数の中心が妊娠38週から37週にシフトし、また低出生体重児の割合は2016年に33.4%と例年よりも増加したが、2017年には再び27.8%に減少した。NICU収容の対象となっている2000g未満の児は、2012年の51例（11.1%）と比較し、2014年からはやや増加傾向であったのが、2017年は10.2%に減少した。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
500g未満	-	-	-	-	-	-	-
500-999g	1	2	2	3	2	3	-
1,000-1,499g	13	15	15	14	15	11	15
1,500-1,999g	32	34	25	43	44	58	35
2,000-2,499g	87	79	87	91	110	114	87
2,500g以上	355	331	394	377	374	370	355
不明	4	-	-	-	-	1	-

◆ 出産時年齢（例）

2017年分娩妊婦495例のうち35歳以上は202例（40.8%）を占めている。2012年では38.4%であったが、2013年以降は40%を超え、ほぼ横ばいである。

40歳以上の症例は2016年の12.9%に対し、2017年は10.7%であった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
35歳未満	285	281	273	305	303	293
35-39歳	144	158	165	163	151	149
40-44歳	32	55	52	50	63	50
45歳以上	2	1	3	1	4	3

◆ 合併症妊娠（例）

合併症で多いのは子宮筋腫、糖尿病、精神科疾患などである。2013年以降のデータは、日本産科婦人科学会の周産期登録データベースから抽出したものであるため、喘息合併の症例については、一部解析できていない。子宮筋腫核出術後については前述のデータベースからは解析できないが2014年以降は当院で独自に集計した。今後この周産期年報における表示項目についても再度検討する必要がある。

合併症についての解析は、2012年以前のデータベースが不完全と推測されるため、年次別変動については評価できない。しかしながら糖尿病や精神科疾患については、増加傾向であると推測されることから、慎重な動向観察が必要である。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮筋腫	-	-	36	33	29	42	32
子宮筋腫（核出術後）	27	13	-	10	14	16	8
卵巣嚢腫（腫瘍）	9	2	4	5	9	5	6
子宮頸癌（含円錐切除後）	7	-	3	8	10	9	4
子宮奇形	4	4	4	1	6	1	2
甲状腺機能亢進症	3	2	8	9	6	12	8
甲状腺機能低下症	3	1	7	10	9	14	28
糖尿病（含GDM）	23	11	20	27	27	29	32
喘息	14	3	-	-	11	9	10
慢性腎炎	5	-	3	2	4	0	4
本態性高血圧	3	1	1	7	4	5	2
ITP	-	-	-	-	-	-	-
自己免疫疾患	3	1	8	12	2	5	2
循環器疾患	4	1	3	2	7	-	8
精神科疾患（含てんかん）	14	4	14	33	24	20	34
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	3	-	1	2	7	-	2
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	7	-	2	4	4	8	2
その他	11	-	-	-	-	-	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

産科合併症では、やはり切迫早産や前期破水が多くを占めている。妊娠高血圧症候群、前置胎盤、常位胎盤早期剥離などの重篤な合併症も多々認められた。2013年と2014年の弛緩出血の症例数が目立って多いが、これは産後2時間までの出血量が500g以上という、いわゆる分娩時多量出血の定義をもとに集計した結果である。産褥期の出血によりバイタル異常を呈した例数を意味するものではない。当院では新生児外科疾患に対応は困難であり、消化管異常や先天性心奇形等と判断した症例は大学病院等への母体搬送となっているため、当院で分娩まで管理した胎児異常の症例数は少ない。

日本産科婦人科学会の分娩統計をベースとし、当院で分娩に至った症例のみに基づくデータであり、入院・外来管理後に紹介元の地域病院に逆紹介した症例や、他院へ紹介・転送した症例は除かれていることに留意されたい。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	128	111	219	147	168	189	140
妊娠高血圧症候群	32	35	21	42	58	57	36
胎内胎児発育制限	21	5	13	14	35	39	28
多胎妊娠	34	31	30	36	34	41	24
前置胎盤	12	9	12	11	7	15	8
子癇	-	5	4	2	1	-	-
弛緩出血	15	97	282	136	56	62	50
常位胎盤早期剥離	10	11	4	8	8	7	6
HELLP症候群	1	3	1	-	1	2	1
低置胎盤	-	-	5	1	5	4	4
血液型不適合	-	-	6	4	6	8	8
羊水過多	-	-	-	1	-	2	2
羊水過小	-	-	2	3	7	3	2
胎児異常	-	-	-	-	-	4	3
その他	199	-	-	-	-	-	-

◆ 産科手術他（例）

2017年の頸管縫縮術は3例のみであった。また子宮動脈塞栓術の適応例もなかった。胎児手術や羊水除去は当センターでは以前から行っていない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮頸管縫縮術	4	3	3	5	6	1	3
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	2	12	2	2	2	3
産道血腫除去術	1	1	-	1	-	3	-
子宮動脈塞栓術	4	2	2	4	3	-	-
子宮摘出術	3	-	1	1	-	-	1
その他	22	-	-	-	-	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

2017年は産科入院症例の24例に輸血を要した。産後出血での搬送症例に対する適応が中心であった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
輸血治療症例数	27	-	14	20	33	25	24

◆ NICU 収容症例数（例）

近年 NICU 収容新生児数は増加傾向であった。専門的治療が行われることは好ましい状況であると考えられるが、NICU 収容基準の変化、ハイリスク妊娠の増加、分娩週数の低下など、NICU 収容新生児数の増加に影響する因子を解析し、NICU 病床のより適切な運用を目指す必要がある。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
NICU収容症例数	121	145	208	227	141	147	110

◆ 多胎妊娠（例）

多胎妊娠は2010年以降35例前後で大きな変動はなかったが、2017年は24例と減少した。双胎妊娠では32週前後から入院管理となる場合が多く、全病床のうち約4床を常時占有することになり、平均在院日数の増加にも影響している。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
双胎	34	31	30	37	34	41	24
うちMD	9	11	11	16	10	18	9
うちDD	25	20	19	21	24	23	15

◆ 母体搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

院外からの母体産褥搬送の収容は、2011年以降著明に増加している。2017年の搬送収容は151件であった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
母体搬送収容数	106	100	105	141	147	148	151

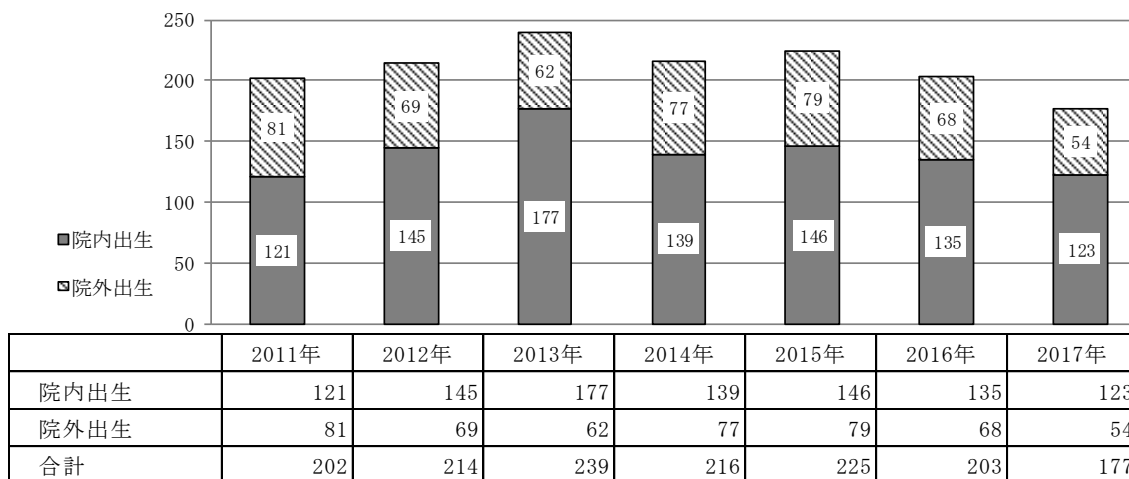
◆ 母体搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

母体産褥搬送となった疾患名に大きな変動はなかった。切迫早産や前期破水が大半を占める。胎児奇形の疑いで搬送依頼があった際には、当院 NICU での対応は困難であることから奈良医大・近大奈良あるいは大阪府内の新生児外科で対応可能な病院への搬送を依頼している。妊娠高血圧症候群、産後出血、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、HELLP 症候群などの重篤例や産後出血についての搬送数は例年と著変なかった。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	56	62	74	84	97	94	87
妊娠高血圧症候群	8	13	6	10	19	16	11
胎内胎児発育制限	8	5	2	1	1	4	1
産後出血	10	8	2	20	8	11	17
胎児機能不全	5	4	1	2	2	3	9
常位胎盤早期剥離	2	5	5	5	3	3	2
前置胎盤	2	5	2	1	2	2	2
多胎	-	-	1	4	-	-	-
HELLP症候群	-	3	1	2	-	1	2
胎児奇形	-	-	-	-	-	-	1
帝王切開合併症	-	-	-	-	-	-	2
未受診	-	-	-	-	-	-	2
その他	18	12	28	12	15	14	15

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)



◆ 入院時疾患名 (例)

	2013	2014	2015	2016	2017
呼吸器疾患	93	70	146	101	77
新生児呼吸障害	-	4	-	12	1
新生児一過性多呼吸	38	34	82	55	52
重症新生児無呼吸発作	1	-	-	-	-
新生児無呼吸発作	38	17	8	6	6
新生児呼吸窮迫症候群	6	5	46	18	11
胎便吸引症候群	7	5	4	3	2
喉頭軟化症	-	2	-	-	-
新生児気胸、新生児緊張性気胸	2	1	1	1	3
新生児慢性肺疾患	-	1	-	-	-
新生児肺出血	1	1	4	5	2
誤嚥性肺炎	-	-	1	1	-
心・循環器疾患	1	3	4	5	7
新生児遷延性高血圧症	-	1	-	1	1
両大血管右室起始症	-	1	-	1	-
新生児肺動脈閉鎖症	-	1	-	-	-
動脈管開存症	1	-	-	1	3
動脈管早期閉鎖	-	-	1	-	-
新生児不整脈	-	-	1	-	-
心室中隔欠損症	-	-	1	1	1
Fallot四徴症	-	-	1	-	-
肺高血圧症	-	-	-	1	-
靱肺動脈還流異常	-	-	-	-	1
大動脈狭窄症の疑い	-	-	-	-	1
消化管疾患	3	6	6	6	2
新生児嘔吐	1	3	5	5	-
哺乳障害	1	1	-	1	-
新生児メレナ	1	-	1	-	-
肥厚性幽門狭窄症	-	1	-	-	-
胎便栓症候群	-	1	-	-	-
新生児血便	-	-	-	-	1
胃軸捻症	-	-	-	-	1
脳・神経疾患	1	1	1	2	0
低酸素性脳症	1	-	-	-	-
新生児低酸素性虚血性脳症	-	-	-	1	-
新生児の筋緊張症	-	1	-	-	-
新生児痙攣	-	-	1	1	-
染色体異常 奇形症候群	5	4	6	3	3
18トリソミー	2	2	-	-	-
21トリソミー (疑い含む)	-	-	3	1	2
Prader-Willi症候群	1	-	1	-	-
口唇口蓋裂	1	-	2	-	-
両側低形成腎	-	1	-	-	-
両側先天性水腎症	1	1	-	-	-
気管支肺異形成症	-	-	-	1	-
トリーチャ・コリンズ症候群	-	-	-	1	-
メンクス病の疑い	-	-	-	-	1

		2013	2014	2015	2016	2017
感染症		9	13	13	5	5
内 訳	重症感染症の疑い	-	1	-	-	-
	新生児感染症	-	-	7	3	2
	新生児TSS様発疹症	1	-	2	-	-
	ウイルス性胃腸炎	1	1	-	-	-
	サイトメガロウイルス感染症	-	1	-	1	-
	RSウイルス感染症	-	1	-	-	-
	MRSA感染症	1	1	-	-	-
	GBS感染症	-	-	3	1	-
	子宮内感染症	-	1	-	-	-
	リステリア症	-	1	-	-	-
	先天梅毒疑い	-	-	1	-	-
	菌血症	1	-	-	-	-
	CBS敗血症	1	-	-	-	-
	新生児敗血症（疑いも含む）	3	2	-	-	3
	新生児敗血症のショック	-	1	-	-	-
	伝染性膿痂症	-	2	-	-	-
細菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	
その他		127	119	43	81	46
内 訳	低出生体重児	50	27	10	21	9
	極低出生体重児	19	10	1	4	-
	超低出生体重児	2	2	-	4	-
	早産児	33	58	2	31	15
	重症新生児仮死	2	4	-	3	5
	新生児仮死	5	2	13	2	4

		2013	2014	2015	2016	2017
内 訳	潜在性胎児仮死	-	-	1	-	-
	新生児重症黄疸	-	1	-	-	-
	新生児黄疸	2	2	-	3	4
	高ビリルビン血症	3	1	4	1	2
	新生児低血糖	3	1	4	3	1
	新生児一過性低血糖症	-	-	-	2	-
	高インスリン性低血糖症	-	1	4	-	-
	新生児低体温症	1	1	-	-	-
	大腿骨骨幹部骨折	1	-	-	-	-
	新生児鎖骨骨折	-	-	-	1	1
	多血症	1	3	3	1	-
	Rh溶血性疾患	1	-	-	-	-
	新生児ABO不適合溶血性疾患	2	1	-	-	2
	胎盤輸血症候群	-	-	-	-	1
	帝王切開症候群	1	2	-	2	2
	新生児血小板減少症	-	1	-	-	-
	新生児脱水症	-	1	-	-	-
	後鼻孔閉鎖症	-	1	-	-	-
	先天性表皮水疱症の疑い	1	-	-	-	-
	新生児臍炎	-	-	1	-	-
急性胃腸膜病変	-	-	-	1	-	
甲状腺腫	-	-	-	1	-	
未熟児網膜症	-	-	-	1	-	

◆ 出生週数（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
23週	-	-	-	-	-	1	-
24週	-	-	-	-	-	-	-
25週	1	1	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	2	-	3	-
27週	-	-	-	-	1	2	-
28週	1	1	4	3	6	2	3
29週	2	4	4	2	1	1	-
30週	4	8	5	3	5	3	2
31週	10	5	7	4	10	9	9
32週	8	5	12	10	14	13	4
33週	11	9	22	13	17	12	15
34週	16	18	17	23	22	22	21
35週	19	28	27	33	36	32	28
36週	18	13	13	17	16	14	9
37週以上	112	122	127	104	97	89	86

◆ 出生時体重（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
500g未満	-	-	-	-	-	1	-
500-749g	1	-	-	-	-	-	-
750-999g	1	3	2	4	2	7	-
1,000-1,249g	6	6	6	6	10	6	6
1,250-1,499g	8	11	21	10	10	7	9
1,500-1,749g	16	10	24	16	23	19	11
1,750-1,999g	21	27	20	31	35	27	27
2,000-2,249g	28	26	23	31	25	29	27
2,250-2,499g	22	26	31	25	27	27	23
2,500g以上	99	105	112	93	93	80	74

◆ 人工呼吸器管理症例

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
入院数（例）	202	214	239	216	225	203	177
人工呼吸器管理症例数（例）	112	80	86	66	84	67	63
人工管理症例率（%）	55.4	37.4	36.0	30.6	37.3	33.0	35.6

◆ 外科疾患（心臓、眼科、脳外科など含む）

当院には小児外科がないため、オペはすべて他院で行っている。

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
女	37週	2220g	動脈管開存、心房中隔欠損	動脈管結紮術
男	34週	1673g	ヒルシュスプルング病	stoma造設術
女	36週	2175g	トリーチャ・コリンズ症候群	気管造設術

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）
26週	-（- / -）	100.0（2 / 2）	-（- / -）	100.0（3 / 3）	-（- / -）
27週	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	-（- / -）
28週	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（6 / 6）	100.0（2 / 2）	100.0（3 / 3）
29週	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）	100.0（1 / 1）	-（- / -）
30週	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）	100.0（2 / 2）
31週	100.0（7 / 7）	100.0（4 / 4）	100.0（10 / 10）	100.0（9 / 9）	100.0（9 / 9）
32週	100.0（12 / 12）	100.0（10 / 10）	100.0（14 / 14）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）
33週	100.0（22 / 22）	100.0（13 / 13）	100.0（17 / 17）	100.0（12 / 12）	100.0（15 / 15）
34週	100.0（17 / 17）	100.0（23 / 23）	100.0（22 / 22）	100.0（22 / 22）	100.0（21 / 21）
35週	100.0（27 / 27）	97.0（32 / 33）	100.0（36 / 36）	96.9（31 / 32）	100.0（28 / 28）
36週	100.0（13 / 13）	100.0（17 / 17）	100.0（16 / 16）	100.0（14 / 14）	100.0（9 / 9）
37週以上	99.2（126 / 127）	100.0（104 / 104）	97.9（95 / 97）	100.0（89 / 89）	98.8（85 / 86）

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存数（例）

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）
750-999g	100.0（2 / 2）	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）	100.0（7 / 7）	-（- / -）
1,000-1,249g	100.0（6 / 6）	83.3（5 / 6）	100.0（10 / 10）	100.0（6 / 6）	100.0（6 / 6）
1,250-1,499g	100.0（21 / 21）	100.0（10 / 10）	100.0（10 / 10）	100.0（7 / 7）	100.0（9 / 9）
1,500-1,749g	100.0（24 / 24）	100.0（16 / 16）	100.0（23 / 23）	100.0（19 / 19）	100.0（11 / 11）
1,750-1,999g	100.0（20 / 20）	100.0（31 / 31）	100.0（35 / 35）	100.0（27 / 27）	96.3（26 / 27）
2,000-2,249g	100.0（23 / 23）	100.0（31 / 31）	100.0（25 / 25）	96.6（28 / 29）	100.0（27 / 27）
2,250-2,499g	100.0（31 / 31）	100.0（25 / 25）	100.0（27 / 27）	100.0（27 / 27）	100.0（23 / 23）
2,500g以上	99.1（111 / 112）	100.0（93 / 93）	97.8（91 / 93）	100.0（80 / 80）	100.0（74 / 74）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	1	1	2	-	1
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	-	-	-

◆ 死亡例一覧

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
男	42週3日	4336g	0日	新生児遷延性肺高血圧症
女	38週0日	1777g	137日	肺高血圧症・心室中隔欠損症

※入院中の死亡ではない。

当院退院後（NICU、小児科病棟から退院後）、自宅で死亡。当院で確認。NICU入院歴ありの児。

◆ 新生児搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

2014年 - 79名のうち、2名は路上、自宅を含むため、病院からは実質77名

2015年 - 自宅1名含むため病院からは実質78名

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
新生児搬送収容数	12	47	81	65	62	79	78	68	56

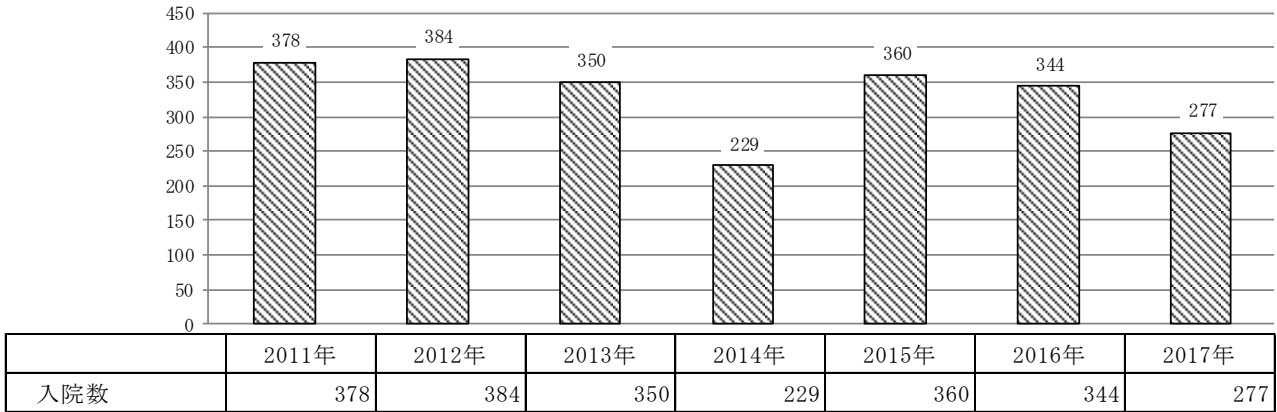
◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

	2013	2014	2015	2016	2017		2013	2014	2015	2016	2017
呼吸器疾患	37	51	37	36	32	染色体異常 奇形症候群	2	-	2	1	2
呼吸障害	-	48	3	9	-	染色体異常	1	-	-	-	-
新生児一過性多呼吸	15	-	31	17	27	口唇口蓋裂	1	-	1	-	-
新生児無呼吸発作	13	-	1	2	-	片側性唇顎口蓋裂	-	-	1	-	-
新生児呼吸窮迫症候群	-	-	-	2	1	メンケス病の疑い	-	-	-	-	1
新生児気胸、新生児緊張性気胸	1	-	1	1	2	ダウン症(疑い含む)	-	-	-	1	1
喉頭蓋嚢胞	-	-	1	-	-	感染症	4	4	6	3	3
新生児肺出血	3	2	-	1	1	感染症	4	3	5	2	2
気管支肺異形成症	-	-	-	1	-	新生児感染症の疑い	-	-	-	-	-
胎便吸引症候群	4	1	-	2	1	新生児細菌性髄膜炎	-	-	1	-	-
新生児肺炎	-	-	-	-	-	新生児敗血症	-	1	-	-	1
誤嚥性肺炎	-	-	-	1	-	先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	-	1	-
咽頭軟化症	1	-	-	-	-	その他	16	12	21	21	13
心・循環器疾患	1	2	3	3	4	低出生体重児	4	2	5	1	1
完全大血管転位症	-	-	1	-	-	極低出生体重児	-	-	2	1	1
肺高血圧症	-	-	-	1	-	超低出生体重児	-	-	-	3	1
新生児遷延性肺高血圧症	-	-	2	1	-	早産児	3	2	5	5	1
両大血管右室起始症	-	1	-	-	-	新生児仮死	4	1	2	-	-
総肺静脈還流異常	-	-	-	-	1	重症新生児仮死	-	-	4	3	4
新生児血小板減少症	-	1	-	-	-	黄疸	-	2	-	3	1
大動脈狭窄症の疑い	-	-	-	-	1	新生児高ビリルビン血症	1	-	-	1	1
動脈管開存症	1	-	-	1	2	低血糖	-	1	2	-	-
消化管疾患	2	7	6	3	2	発熱	-	2	-	-	-
新生児嘔吐症	1	3	1	3	-	新生児ABO不適合溶血性疾患	2	-	-	-	1
新生児メレナ	1	-	1	-	-	新生児脱水症	-	1	-	-	-
哺乳不良	-	2	3	-	-	新生児低体温症	1	-	-	-	-
新生児腸回転異常の疑い	-	-	1	-	-	胎便栓症候群	1	-	-	-	-
水様便	-	1	-	-	-	C B W	-	1	-	-	-
胃軸捻症	-	-	-	-	1	新生児低酸素性虚血性脳症	-	-	-	1	-
腹部膨満	-	1	-	-	-	G B S 敗血症	-	-	-	1	-
新生児血便	-	-	-	-	1	心室中隔欠損症	-	-	-	1	1
脳・神経疾患	0	1	3	1	0	新生児鎖骨骨折	-	-	-	1	1
新生児痙攣	-	-	1	1	-	高度インスリン低血糖症	-	-	1	-	-
筋緊張	-	1	1	-	-						
睡眠時ミオクローヌス	-	-	1	-	-						

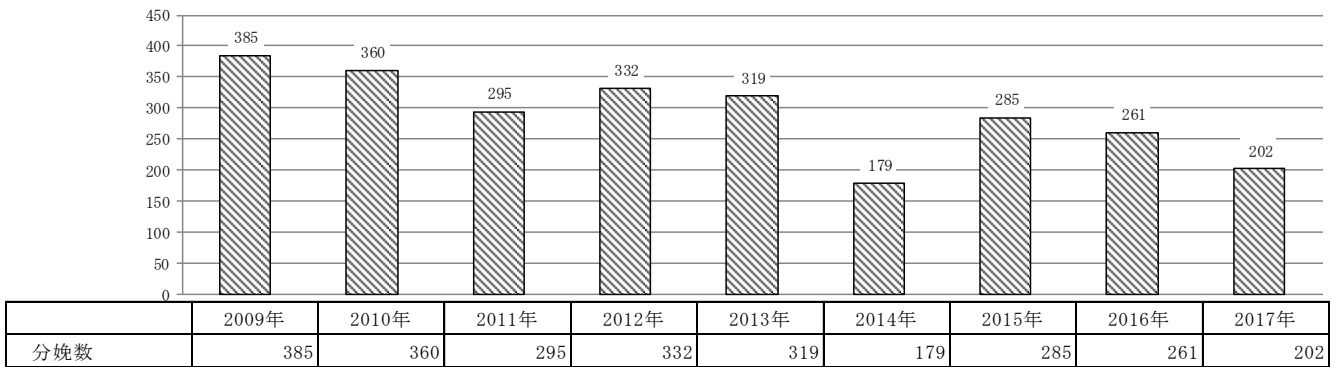
4. 近畿大学奈良病院（平成31年4月 近畿大学医学部奈良病院より名称変更）

(1) 産科部門診療実績

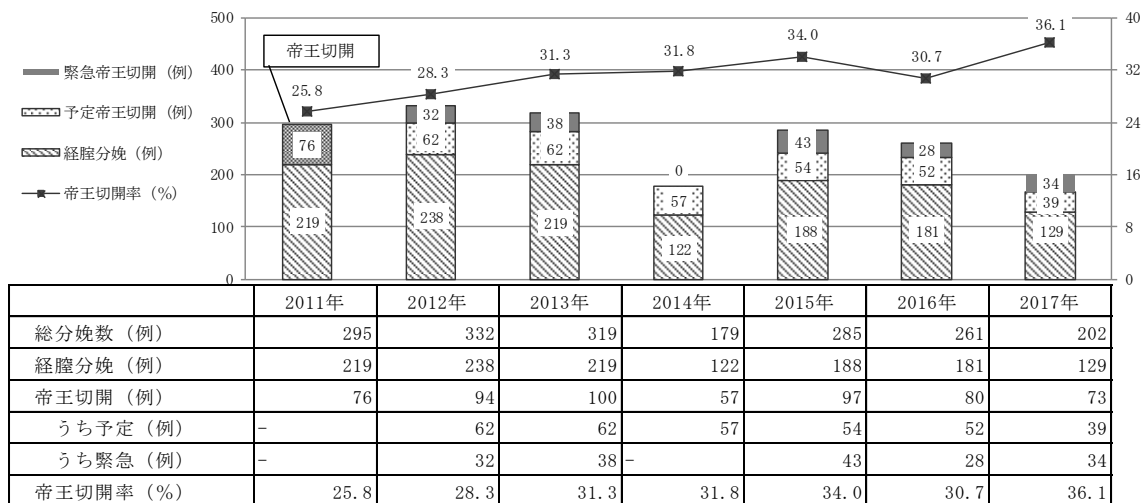
◆ 入院数（例）



◆ 分娩数（例）



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
23週	-	-	1	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	-	-
25週	-	1	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	-	-
30週	-	-	-	1	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	-
32週	1	-	-	1	3	-	3
33週	-	1	1	2	1	3	1
34週	-	1	2	1	4	8	5
35週	1	2	2	-	10	4	5
36週	4	8	8	1	15	11	5
37週	39	54	44	28	34	31	24
38週	46	75	77	48	78	70	57
39週	70	70	77	32	65	56	46
40週	91	80	67	45	58	54	41
41週	37	32	39	19	17	21	15
42週	-	2	1	1	-	1	-
42週以上	-	-	-	-	-	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

双胎：3例 それぞれの出生時体重

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
500g未満	-	-	1	-	-	-	-
500-999g	-	1	-	-	-	-	-
1,000-1,499g	1	-	-	1	2	-	-
1,500-1,999g	1	2	3	3	6	6	6
2,000-2,499g	24	22	34	7	31	38	25
2,500g以上	264	307	281	168	246	220	172

◆ 出産時年齢（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
35歳未満	196	232	196	88	154	152	111
35-39歳	85	71	102	67	98	78	74
40-44歳	14	29	21	24	30	29	16
45歳以上	-	-	-	-	-	2	1

◆ 合併症妊娠（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮筋腫	-	-	-	-	14	16	11
子宮筋腫（核出術後）	2	1	-	6	-	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	1	-	13	17	21
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	-	4	-	-	6
子宮奇形	-	-	-	-	-	1	-
甲状腺機能亢進症	-	-	-	1	1	1	4
甲状腺機能低下症	-	-	-	1	6	8	13
糖尿病（含GDM）	1	-	-	5	12	37	21
喘息	-	-	-	1	11	12	12
慢性腎炎	-	-	-	-	-	1	-
ITP	-	-	-	-	2	3	2
自己免疫疾患	-	-	-	1	2	-	-
循環器疾患	-	-	-	-	4	5	6
精神科疾患（含てんかん）	-	-	-	-	-	3	-
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	-	-	1	3	3	-
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	-	-	-	1	11	11	15

◆ 産科合併症（例 重複あり）

2017年度切迫早産数

傷病名登録例 または 塩酸リトドリン処方（経口含む）例のカウント数 90名

切迫早産にて入院症例 32名

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	3	4	24	16	18	35	90
妊娠高血圧症候群	6	3	10	6	15	11	9
胎内胎児発育制限	1	-	-	9	9	15	13
多胎妊娠	-	-	3	1	6	5	3
前置胎盤	1	4	1	1	4	-	-
産後出血	4	1	-	-	3	19	26
弛緩出血	-	-	-	-	-	2	1
常位胎盤早期剥離	-	5	1	-	2	2	4
HELLP症候群	-	-	-	-	1	1	-
低置胎盤	-	-	-	-	1	3	1
血液型不適合	-	-	-	-	1	11	9
羊水過多	-	-	-	1	-	5	4
羊水過小	-	-	-	-	-	11	10
胎児異常	-	-	-	11	2	8	6

◆ 産科手術他（例）

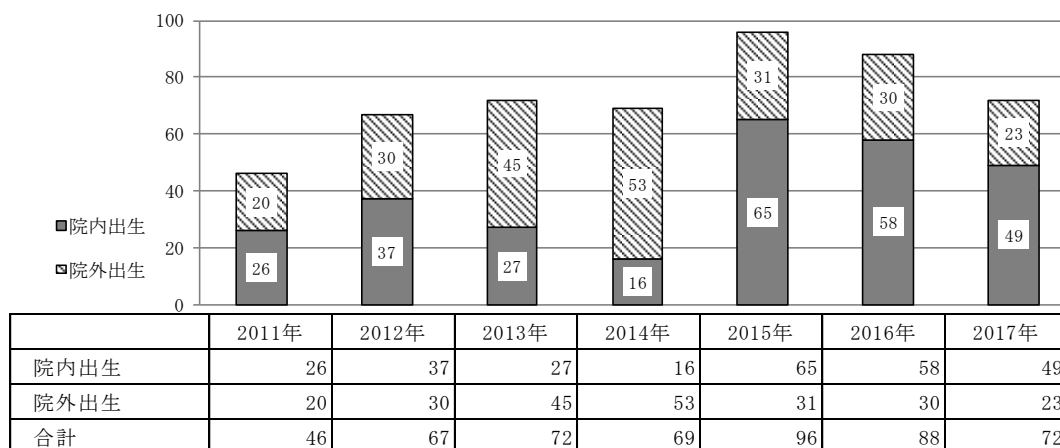
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮頸管縫縮術	-	1	1	1	1	1	-
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	-	1	-	-	1	-
産道血腫除去術	-	-	-	-	-	3	-

◆ 輸血治療症例（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
輸血治療症例数	-	1	-	-	-	9	5

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)



◆ 入院時疾患名 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
呼吸器疾患	17	19	21	20	12
心・循環器疾患	18	12	6	3	2
消化管疾患	12	16	10	12	22
脳・神経疾患	-	2	2	3	1
外科疾患	6	4	10	6	14
染色体異常 奇形症候群	-	1	3	6	3
感染症	9	3	6	3	3
その他	10	12	38	35	29

◆ 出生週数 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
22週未満	-	2	-	-	-
22週	-	-	-	-	-
23週	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-
25週	1	-	1	-	-
26週	-	-	-	1	-
27週	-	-	-	-	-
28週	1	-	-	-	1
29週	1	-	-	-	-
30週	-	1	-	-	-
31週	-	-	-	-	-
32週	2	1	2	-	3
33週	1	1	4	3	1
34週	1	1	5	11	9
35週	2	-	13	5	5
36週	6	1	15	7	5
37週以上	57	174	56	62	48

◆ 出生時体重（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
500g未満	-	2	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-
750-999g	1	-	1	1	-
1,000-1,249g	1	1	-	-	-
1,250-1,499g	3	-	3	-	1
1,500-1,749g	3	2	1	4	5
1,750-1,999g	-	1	7	4	4
2,000-2,249g	2	4	11	15	6
2,250-2,499g	17	4	21	18	20
2,500g以上	45	167	52	46	36

◆ 人工呼吸器管理症例

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
入院数（例）	72	69	96	88	72
人工呼吸器管理症例数（例）	17	20	10	16	15
人工管理症例率（％）	23.6	29.0	10.4	18.2	20.8

◆ 外科疾患（心臓、眼科、脳外科など含む）

女	32週	1712g	先天性十二指腸閉鎖	十二指腸閉鎖症根治術
女	36週	2175g	トリチャーコリンズ症候群	気管切開術
女	37週	2282g	先天性食道閉鎖症	胸腔鏡下食道閉鎖根治術
男	37週	2515g	先天性横隔膜ヘルニア	胸腔鏡下横隔膜ヘルニア根治術
男	40週	2800g	先天性横隔膜ヘルニア	胸腔鏡下横隔膜ヘルニア根治術
女	36週	2385g	胎便性腹膜炎	胎便性腹膜炎ドレナージ術
男	34週	1673g	ヒルシユスプルング病	人工肛門増設術
男	37週	2668g	腸回転異常症	腸回転異常症手術
男	34週	1673g	ヒルシユスプルング病	人工肛門増設術
男	34週	2180g	先天性十二指腸閉鎖	十二指腸十二指腸吻合術

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存率 (%)

	2013年 (内訳)	2014年 (内訳)	2015年 (内訳)	2016年 (内訳)	2017年 (内訳)
22週未満	- (- / -)	0 (0 / 2)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
22週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
23週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
24週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
25週	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)
26週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)
27週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
28週	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)
29週	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
30週	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
31週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
32週	100.0 (2 / 2)	100.0 (1 / 1)	100.0 (2 / 2)	- (- / -)	100.0 (3 / 3)
33週	100.0 (1 / 1)	100.0 (1 / 1)	100.0 (4 / 4)	100.0 (3 / 3)	100.0 (1 / 1)
34週	100.0 (1 / 1)	100.0 (1 / 1)	80.0 (4 / 5)	100.0 (11 / 11)	100.0 (9 / 9)
35週	100.0 (2 / 2)	- (- / -)	100.0 (13 / 13)	80.0 (4 / 5)	100.0 (5 / 5)
36週	100.0 (6 / 6)	100.0 (1 / 1)	93.3 (14 / 15)	100.0 (7 / 7)	100.0 (5 / 5)
37週以上	98.2 (56 / 57)	100.0 (174 / 174)	98.2 (55 / 56)	100.0 (62 / 62)	97.9 (47 / 48)

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存率 (%)

	2013年 (内訳)	2014年 (内訳)	2015年 (内訳)	2016年 (内訳)	2017年 (内訳)
500g未満	- (- / -)	0.0 (0 / 2)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
500-749g	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
750-999g	100.0 (1 / 1)	0.0 (0 / 1)	100.0 (1 / 1)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)
1,000-1,249g	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
1,250-1,499g	100.0 (3 / 3)	- (- / -)	33.3 (1 / 3)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)
1,500-1,749g	100.0 (3 / 3)	100.0 (2 / 2)	100.0 (1 / 1)	100.0 (4 / 4)	100.0 (5 / 5)
1,750-1,999g	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	100.0 (7 / 7)	100.0 (4 / 4)	75.0 (3 / 4)
2,000-2,249g	100.0 (2 / 2)	100.0 (4 / 4)	100.0 (11 / 11)	93.3 (14 / 15)	100.0 (6 / 6)
2,250-2,499g	100.0 (17 / 17)	100.0 (4 / 4)	100.0 (21 / 21)	100.0 (18 / 18)	100.0 (20 / 20)
2,500g以上	97.8 (44 / 45)	100.0 (167 / 167)	98.1 (51 / 52)	100.0 (46 / 46)	100.0 (36 / 36)

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	-	1	1	1	-
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	1	-	2	-	1

◆ 死亡例一覧

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
女	37週	1920g	24日	13トリソミー

◆ 新生児搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
新生児搬送収容数	18	5	6	7	20	15	20	24	23

◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

	2013	2014	2015	2016	2017
呼吸器疾患	7	8	9	12	5
呼吸障害	6	8	8	6	1
新生児一過性多呼吸	1	-	1	2	-
多呼吸	-	-	-	2	-
胎便吸引症候群	-	-	-	1	-
新生児気胸	-	-	-	-	3
気切	-	-	-	-	1
喉頭蓋嚢胞	-	-	-	1	-
心・循環器疾患	6	3	1	2	1
心疾患	1	-	-	-	-
心雑音	3	1	-	1	-
肺高血圧症	-	-	-	1	-
ファロー四徴症	-	-	1	-	-
心室中隔欠損（VSD）	1	-	-	-	-
不整脈	-	1	-	-	1
心内膜症欠損	1	-	-	-	-
単心室	-	1	-	-	-
消化管疾患	5	4	7	6	13
胆汁性嘔吐	2	-	2	-	1
血性嘔吐	-	-	1	-	-
嘔吐	-	1	1	-	2
哺乳緩慢	-	-	-	1	-
哺乳不良	2	-	-	1	1
新生児メレナ	-	-	1	-	-
血便	-	1	-	-	2
鎖腸	-	-	1	-	-
鎖肛	-	-	-	1	-
腹壁破裂	1	-	-	-	-
腹部膨満	-	2	1	2	1
胃出血	-	-	-	-	1
ヒルシュスブルング病疑い	-	-	-	-	2
腸回転異常症の疑い	-	-	-	-	1
消化管狭窄疑い	-	-	-	1	-
横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	1
滞便イリウス	-	-	-	-	1

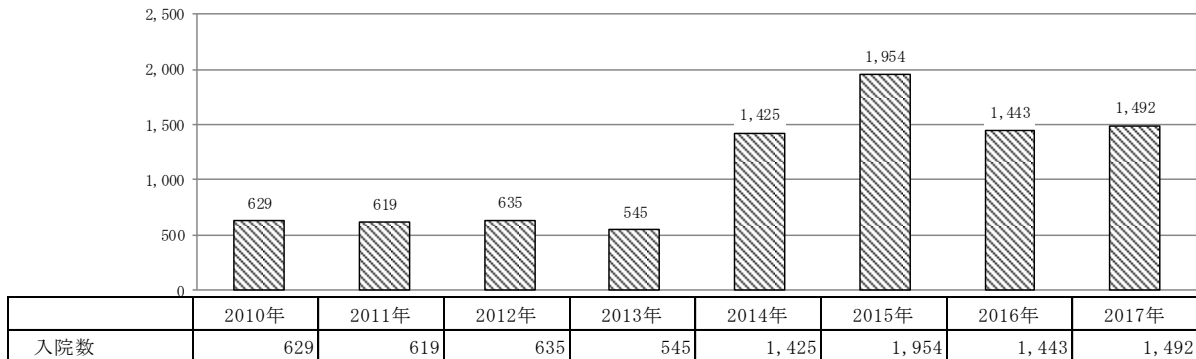
	2013	2014	2015	2016	2017
染色体異常 奇形症候群	4	1	3	1	2
染色体異常	1	-	-	-	1
ダウン症の疑い	3	1	2	1	-
口唇口蓋裂	-	-	1	-	1
感染症	1	-	1	-	-
感染症	1	-	1	-	-
その他	6	3	2	9	3
黄疸	2	-	-	1	-
新生児仮死	2	-	1	-	-
重傷新生児仮死	-	-	-	1	-
超低出生体重児	-	-	-	1	-
低出生体重児	-	-	-	-	2
活気不良	1	-	-	-	-
チアノーゼ	1	1	-	-	-
日令2からのタール便持続	-	1	-	-	-
発熱	-	1	1	1	-
下血	-	-	-	-	-
21トリソミー疑い	-	-	-	1	-
VSD検査	-	-	-	1	-
先天性表皮水疱症うたがい	-	-	-	1	-
新生児転院のため搬送	-	-	-	1	-
トリーチャー・コリンズ症候群	-	-	-	-	1
詳細不明	-	-	-	1	-

5. 天理よろづ相談所病院

(1) 産科部門診療実績

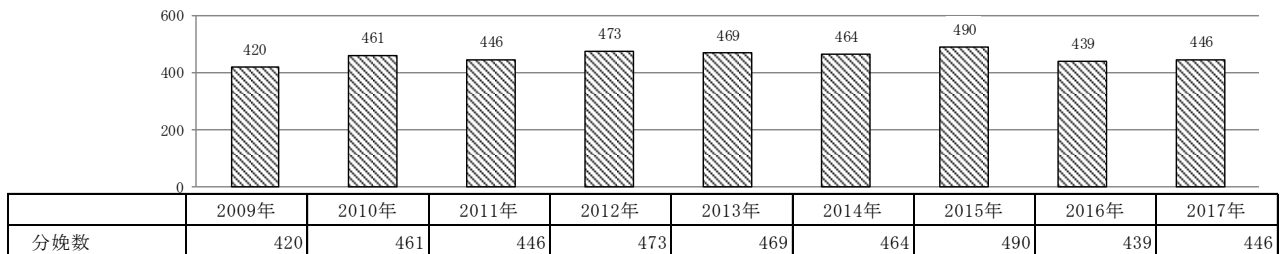
◆ 入院数 (例)

2014年度より産科・婦人科合同で1病棟となったため、産科のみの年間入院数は算出不可能。そのため2014年からは産科・婦人科を合わせた件数を掲載している。

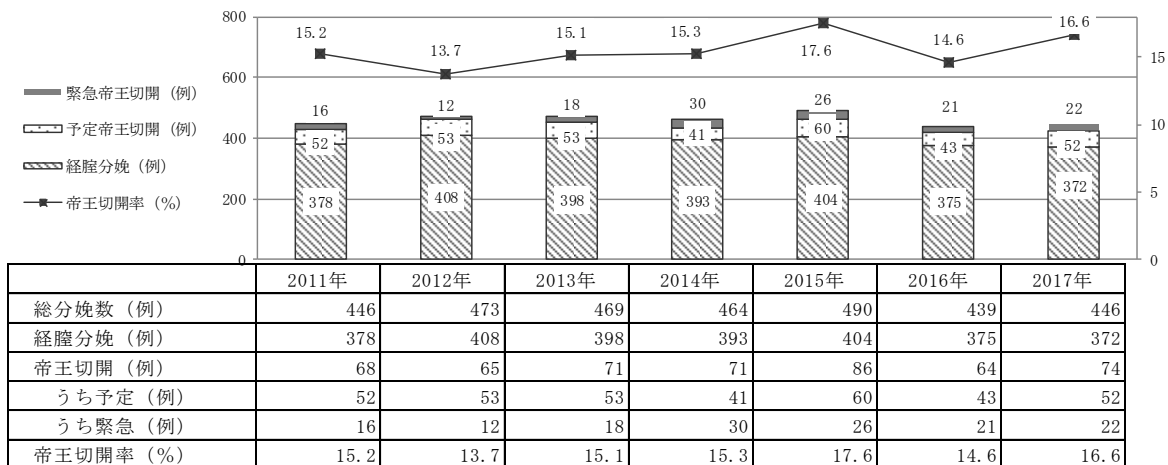


◆ 分娩数 (例)

死産例含む。双胎は2例としてカウント。



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
34週	2	-	1	-	1	3	-
35週	5	6	8	10	7	4	3
36週	19	8	9	15	15	15	14
37週	76	83	38	56	39	29	50
38週	128	118	151	121	138	107	112
39週	123	163	146	137	151	98	140
40週	83	77	92	99	101	135	97
41週	11	18	21	21	28	30	29
42週	-	-	-	-	1	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
1,500-1,999g	2	4	7	4	2	6	2
2,000-2,499g	41	46	46	41	46	27	33
2,500g以上	403	423	413	414	433	403	411

◆ 出産時年齢（例）

2017年は双子1件につき産婦総数は分娩件数(双子は2件カウント)より1名少なくなります。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
35歳未満	329	355	337	343	345	306	304
35-39歳	96	88	120	96	118	109	114
40-44歳	19	30	11	25	27	17	26
45歳以上	2	-	1	-	-	1	1

◆ 合併症妊娠（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮筋腫	25	19	20	18	14	15	10
子宮筋腫（核出術後）	-	-	4	3	6	2	2
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	2	1	-	-	10	11
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	3	1	-	-	3	-
子宮奇形	-	1	3	1	-	-	4
甲状腺機能亢進症	11	17	15	13	16	11	4
甲状腺機能低下症	4	-	-	6	-	4	4
糖尿病（含GDM）	16	15	28	27	6	33	30
喘息	11	16	14	13	15	8	4
慢性腎炎	-	-	-	-	-	-	1
本態性高血圧	-	-	1	1	-	-	1
ITP	2	1	-	1	-	-	1
自己免疫疾患	4	5	4	6	6	6	7
循環器疾患	3	12	3	6	2	3	6
精神科疾患（含てんかん）	4	6	10	10	3	7	7
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	2	1	-	-	2	-
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	-	-	-	1	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	7	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

該当項目の統計を当院にて取っていない場合は（-）としています。

「常位胎盤早期剥離」の項目は部分胎盤早期剥離を含む。

「産後出血」は定義不明なため(-)としています。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	139	128	132	142	152	113	93
妊娠高血圧症候群	12	18	18	18	16	14	7
胎内胎児発育制限	11	34	11	7	10	3	4
多胎妊娠	2	6	6	3例（6人）	5	3	3
前置胎盤	2	1	1	-	2	1	4
産後出血	111	101	115	96	-	-	-
弛緩出血	-	-	-	-	-	-	44
常位胎盤早期剥離	11	1	1	4	4	1	4
HELLP症候群	-	1	-	-	-	-	-
低置胎盤	-	-	3	2	1	2	-
羊水過多	-	-	2	-	-	-	-
羊水過小	-	-	-	4	4	-	1
その他	5	-	-	-	-	5	-

◆ 産科手術他（例）

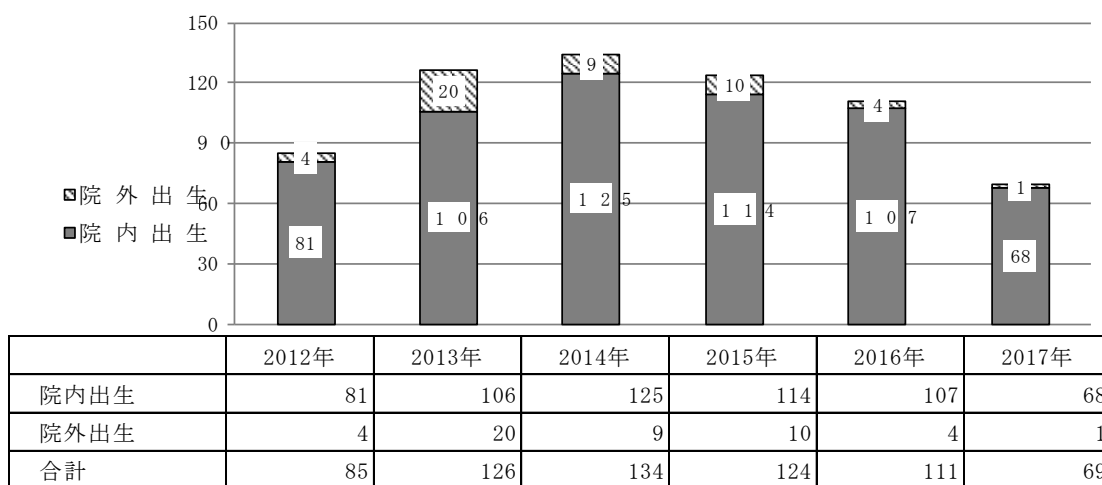
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮頸管縫縮術	9	4	7	6	12	10	2
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	2	1	-	-	1	-
産道血腫除去術	-	1	-	-	-	-	1
子宮動脈塞栓術	-	-	-	1	1	-	-
子宮摘出術	-	-	-	2	-	1	1

◆ 輸血治療症例（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
輸血治療症例数	1	-	3	3	1	2	5

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)



◆ 入院時疾患名 (例)

	2013	2014	2015	2016	2017
呼吸器疾患	34	47	82	72	35
内訳	一過性多呼吸			37	19
	呼吸障害			27	14
	気胸 (軽症)			8	2
心・循環器疾患	7	5	4	3	2
先天性心疾患				3	2
消化管疾患	10	3	5	1	1
ミルクアレルギー				1	1
神経疾患	8	13	5	1	-

	2013	2014	2015	2016	2017
染色体異常 奇形症候群	2	1	2	1	-
ダウン症候群				1	-
感染症	12	32	2	35	14
内訳	MAS (軽症)			2	1
	不明感染症			33	13
その他	53	33	24	29	20
内訳	特発性黄疸			23	14
	仮死			6	6

(※2013～2015年は疾患内訳未集計)

◆ 出生週数 (例)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
26週	-	1	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	-
30週	-	1	-	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	2	-
34週	-	1	-	1	4	-
35週	4	9	11	6	3	4
36週	4	5	9	7	11	12
37週以上	77	109	114	110	91	52

◆ 出生時体重（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
500g未満	-	1	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-	-
750-999g	-	-	-	-	-	-
1,000-1,249g	-	-	-	-	-	-
1,250-1,499g	-	1	-	-	-	-
1,500-1,749g	1	1	-	-	2	-
1,750-1,999g	3	5	4	3	4	2
2,000-2,249g	10	8	5	10	7	4
2,250-2,499g	10	15	18	16	11	8
2,500g以上	61	95	107	95	85	54

◆ 人工呼吸器管理症例

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
入院数（例）	85	126	134	124	111	68
人工呼吸器管理症例数（例）	2	0	0	0	4	2
人工管理症例率（％）	2.4	0.0	0.0	0.0	3.6	2.9

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）
26週	0.0（0 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
27週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
28週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
29週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
30週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
31週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
32週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
33週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（2 / 2）	-（- / -）
34週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	100.0（4 / 4）	-（- / -）
35週	100.0（9 / 9）	100.0（11 / 11）	100.0（6 / 6）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）
36週	100.0（5 / 5）	100.0（9 / 9）	100.0（7 / 7）	100.0（11 / 11）	100.0（12 / 12）
37週以上	100.0（109 / 109）	100.0（114 / 114）	100.0（110 / 110）	100.0（91 / 91）	100.0（52 / 52）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存数（例）

・2016年：出生体重不明が1名あり。

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）	2017年（内訳）
500g未満	0.0（0 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
500-749g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
750-999g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
1,000-1,249g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
1,250-1,499g	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
1,500-1,749g	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（2 / 2）	-（- / -）
1,750-1,999g	100.0（5 / 5）	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）
2,000-2,249g	100.0（8 / 8）	100.0（5 / 5）	100.0（10 / 10）	100.0（7 / 7）	100.0（4 / 4）
2,250-2,499g	100.0（15 / 15）	100.0（18 / 18）	100.0（16 / 16）	100.0（11 / 11）	100.0（8 / 8）
2,500g以上	100.0（95 / 95）	100.0（107 / 107）	100.0（95 / 95）	100.0（85 / 85）	100.0（54 / 54）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	1	-	-	-	-
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	-	-	-

◆ 新生児搬送収容数（例）

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
新生児搬送収容数	1	-	-	-	-	22	9	10	4	1

◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）

		2013	2014	2015	2016	2017
呼吸器疾患		6	4	4	1	1
内訳	呼吸障害	6	4	4	-	1
	肺炎	-	-	-	1	-
脳・神経疾患		2	-	-	-	-
	痙攣うたがい	2	-	-	-	-
消化管疾患		2	3	2	-	-
内訳	哺乳不良	1	3	1	-	-
	メレナ疑い	1	-	-	-	-
	血性嘔吐	-	-	1	-	-
その他		4	-	1	-	-
内訳	チアノーゼ	-	-	1	-	-
	低体重、双子	3	-	-	-	-
	湿疹(水疱)	1	-	-	-	-

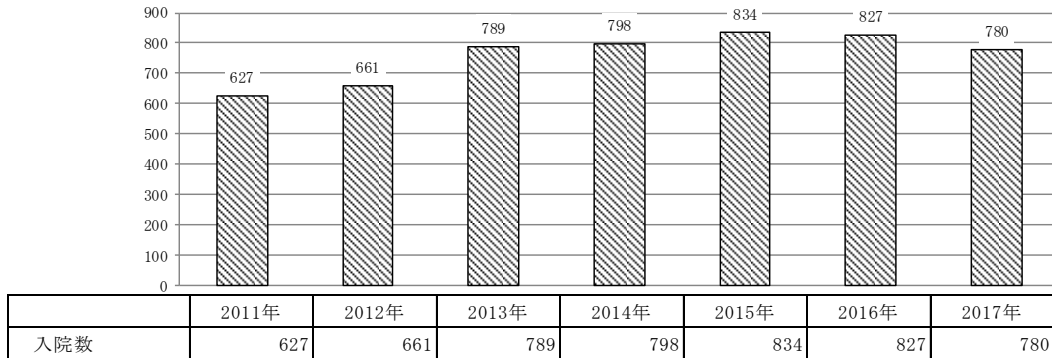
		2013	2014	2015	2016	2017
心・循環器疾患		3	2	3	5	-
内訳	心雑音	1	-	-	-	-
	心疾患疑い	2	-	-	-	-
	フアロー	-	-	2	-	-
	VSD	-	-	1	-	-
	徐脈発作	-	1	-	-	-
	不整脈	-	1	-	-	-
	完全大血管転移	-	-	-	1	-
	両大血管右室起始	-	-	-	1	-
	房室中隔欠損	-	-	-	2	-
肺動脈狭窄	-	-	-	1	-	
感染症		3	-	-	-	-
	感染	3	-	-	-	-

6. 市立奈良病院

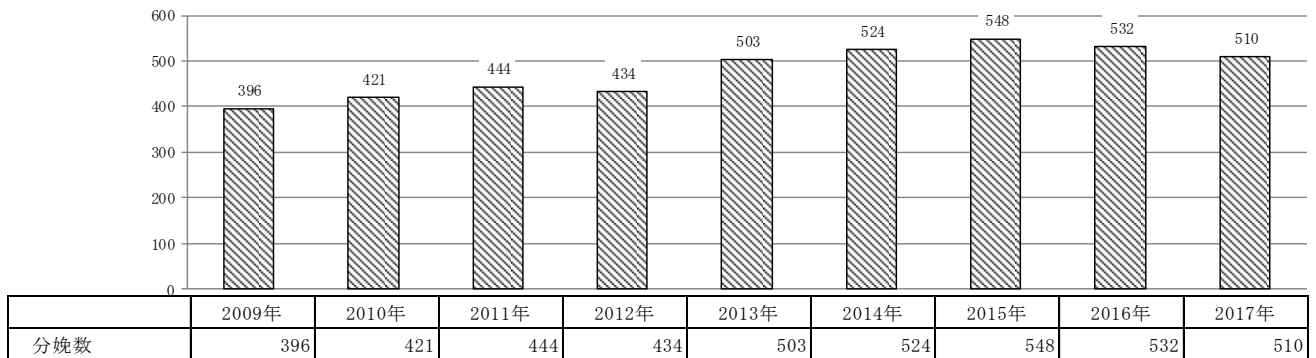
(1) 産科部門診療実績

◆ 入院数 (例)

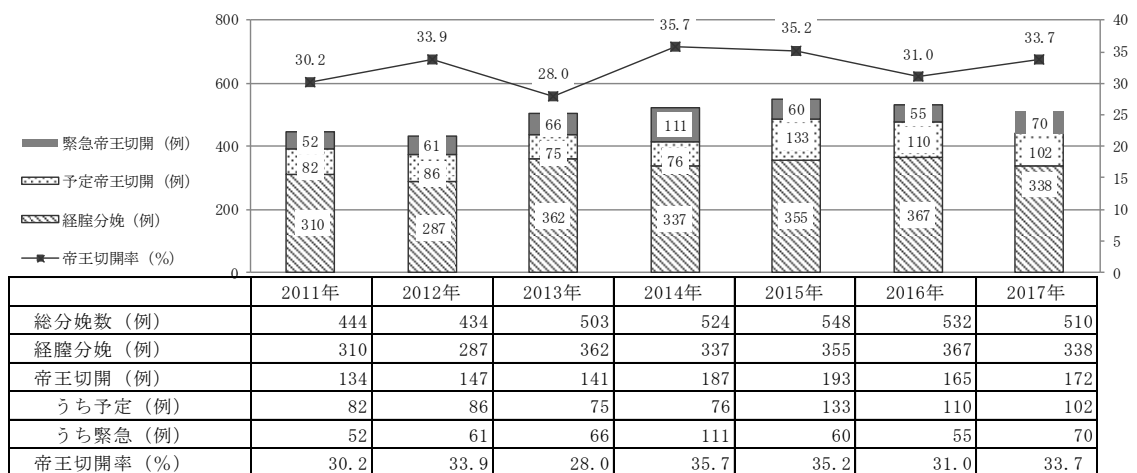
入院 DPC 情報より、ICD コードの 000-099 妊娠、分娩及び産じょくが主病名で入院した患者数を入力しています。



◆ 分娩数 (例)



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
35週	1	1	1	3	-	-	3
36週	13	14	13	25	17	24	18
37週	67	44	46	52	70	65	63
38週	100	121	140	132	157	145	146
39週	108	125	132	142	137	158	124
40週	110	96	128	113	136	115	125
41週	34	27	40	39	30	24	28
42週	1	2	1	-	-	-	1

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
1,500-1,999g	-	-	-	1	2	1	1
2,000-2,499g	27	20	35	26	34	32	35
2,500g以上	409	410	466	485	511	497	472

◆ 出産時年齢（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
35歳未満	328	324	391	383	394	395	373
35-39歳	80	85	89	108	121	112	107
40-44歳	15	21	21	23	33	25	28
45歳以上	-	-	-	1	-	-	2

◆ 合併症妊娠（例）

2014年からは、日産婦のデータベースより抽出したため、症例数が大幅に増加しています。2014年以前では、合併症妊婦を手作業で集計していたため、正確にカウントできていなかったと考えられます。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮筋腫	8	7	25	20	23	26
子宮筋腫（核出術後）	-	-	5	2	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	1	1	9	11	11	6
子宮頸癌（含円錐切除後）	4	1	1	8	-	2
子宮奇形	-	-	-	2	4	1
甲状腺機能亢進症	1	2	6	5	4	3
甲状腺機能低下症	1	2	8	7	9	10
糖尿病（含GDM）	5	5	10	19	16	30
喘息	5	1	12	11	23	9
慢性腎炎	-	-	-	1	6	-
本態性高血圧	1	-	2	3	1	3
自己免疫疾患	-	-	-	2	3	1
循環器疾患	1	-	1	2	3	2
精神科疾患（含てんかん）	-	1	7	6	2	11
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	2	3	1	3	-
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	1	-	1	3	4	-
その他	-	-	-	-	4	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	58	73	63	61	205	201
妊娠高血圧症候群	10	13	28	16	9	9
胎内胎児発育制限	11	28	18	19	24	35
多胎妊娠	-	-	-	1	3	2
前置胎盤	-	-	-	-	-	1
産後出血	17	26	14	12	-	16
弛緩出血	-	-	-	-	10	10
常位胎盤早期剥離	1	-	2	1	-	2
HELLP症候群	-	-	4	-	-	1
低置胎盤	-	-	1	3	1	-
血液型不適合	-	-	7	6	11	4
羊水過多	-	-	-	1	2	-
羊水過小	-	-	5	6	6	1
胎児異常	-	-	1	1	6	3
その他	-	-	3	-	-	-

◆ 産科手術他（例）

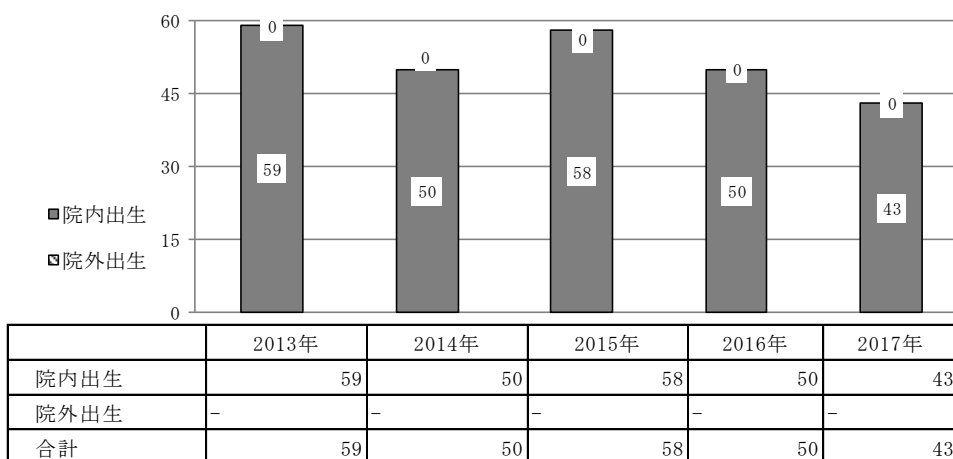
	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮頸管縫縮術	5	2	8	6	14	5
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	1	-	1	-	-
産道血腫除去術	2	1	1	2	-	3
子宮動脈塞栓術	1	-	2	1	-	1
子宮摘出術	-	-	-	1	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
輸血治療症例数	2	2	2	3	1	3

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)



◆ 入院時疾患名 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
呼吸器疾患	8	18	12	16	11
心・循環器疾患	-	-	-	2	-
消化管疾患	4	1	5	4	7
神経疾患	-	-	-	-	2
外科疾患	1	-	-	-	-
感染症	5	1	2	4	3
その他	41	30	39	24	20

◆ 出生週数 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
35週	1	1	-	-	3
36週	5	11	8	6	4
37週以上	53	38	50	44	36

◆ 出生時体重 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
1,500g~1,749g	-	1	-	-	-
1,750g~1,999g	-	-	2	-	1
2,000g~2,249g	5	2	4	1	-
2,250g~2,499g	4	6	6	5	4
2,500g以上	50	41	46	44	38

7. 県内分娩取扱病院

(1) 大和郡山病院

◆ 入院数 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
入院数	563	530	496	451

◆ 分娩様式

	2014年	2015年	2016年	2017年
総分娩数 (例)	433	439	385	355
経膣分娩 (例)	358	364	322	278
帝王切開 (例)	77	73	63	77
うち予定 (例)	51	44	45	47
うち緊急 (例)	26	29	18	30
帝王切開率 (%)	17.8	16.6	16.4	21.7

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年
35週未満	-	-	2	-
35週	1	3	2	3
36週	7	3	6	9
37週	45	44	42	33
38週	102	88	81	90
39週	120	131	125	102
40週	131	117	97	99
41週	29	39	28	16
42週	-	-	1	-

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年
1,500-1,999g	2	1	1	1
2,000-2,499g	26	22	27	21
2,500g以上	407	402	356	330

◆ 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
35歳未満	326	308	292	241
35-39歳	96	98	74	94
40-44歳	18	23	19	17

◆ 合併症妊娠 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮筋腫	3	2	2	4
子宮筋腫(核出術後)	2	6	-	1
卵巣嚢腫(腫瘍)	2	-	-	-
子宮頸癌(含円錐切除後)	-	-	-	-
甲状腺機能亢進症	1	-	2	-
甲状腺機能低下症	2	1	1	3
糖尿病(含GDM)	3	1	2	2
喘息	4	2	3	2
慢性腎炎	-	-	-	-
本態性高血圧	1	1	-	-
循環器疾患	-	-	1	-
精神科疾患(含てんかん)	-	-	2	2
ウイルス性肝炎 (HA, HB, HCなど)	-	1	-	-
消化器疾患(虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	1	3	4	4

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2014年	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	104	99	107	93
妊娠高血圧症候群	7	11	15	18
胎内胎児発育制限	5	3	4	6
多胎妊娠	2	2	2	2
前置胎盤	-	1	-	-
産後出血	3	-	2	-
弛緩出血	-	-	70	56
常位胎盤早期剥離	1	-	1	1
HELLP症候群	-	1	-	5
低置胎盤	-	1	1	-
血液型不適合	5	1	2	1
胎児異常	-	5	5	2

◆ 産科手術他 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮頸管縫縮術	7	3	5	3
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	2	-	-	1
産道血腫除去術	2	1	-	-

◆ 輸血治療症例 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
輸血治療症例	1	-	2	-

(2) 大和高田市立病院

◆ 入院数 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
入院数	1,296	807	1262	809

◆ 分娩様式

	2014年	2015年	2016年	2017年
総分娩数 (例)	655	616	594	583
経膣分娩 (例)	499	447	440	417
帝王切開 (例)	156	169	154	166
うち予定 (例)	71	73	80	95
うち緊急 (例)	85	96	74	71
帝王切開率 (%)	23.8	27.4	25.9	28.5

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年
35週	3	2	5	3
36週	23	14	17	15
37週	63	61	56	70
38週	166	138	134	136
39週	205	172	180	174
40週	172	193	167	155
41週	22	30	35	30

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年
1,500-1,999g	1	-	1	-
2,000-2,499g	65	51	34	40
2,500g以上	588	563	559	545

◆ 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
35歳未満	507	475	471	430
35-39歳	120	116	99	120
40-44歳	27	24	22	33
45歳以上	-	1	2	-

◆ 合併症妊娠 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮筋腫	5	4	8	7
子宮筋腫(核出術後)	-	-	4	3
卵巣嚢腫(腫瘍)	-	8	3	5
子宮頸癌(含円錐切除後)	4	-	4	2
甲状腺機能亢進症	2	-	5	1
甲状腺機能低下症	4	-	4	5
糖尿病(含GDM)	18	9	10	7
喘息	4	2	3	3
慢性腎炎	2	-	-	2
自己免疫疾患	-	-	2	3
循環器疾患	-	2	2	2
精神科疾患(含てんかん)	1	-	2	1
ウイルス性肝炎 (HA, HB, HCなど)	4	2	2	-
消化器疾患(虫垂炎、 潰瘍性大腸炎など)	3	1	4	5

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2014年	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	41	65	76	103
妊娠高血圧症候群	12	21	7	22
胎内胎児発育制限	10	8	1	1
多胎妊娠	4	4	2	2
前置胎盤	2	1	1	2
産後出血	40	29	8	10
常位胎盤早期剥離	5	3	2	1
低置胎盤	2	2	-	-
血液型不適合	4	-	4	3
羊水過多	-	-	-	1
羊水過小	4	1	-	-
胎児異常	1	25	2	-

◆ 産科手術他 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	-	-	2	2
産道血腫除去術	-	2	-	2

◆ 輸血治療症例 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
輸血治療症例	2	4	1	5

(3) 高井病院

◆ 入院数 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
入院数	60	96	81	91

◆ 分娩様式

	2014年	2015年	2016年	2017年
総分娩数 (例)	14	71	69	75
経陰分娩 (例)	13	49	53	49
帝王切開 (例)	1	22	16	26
うち予定 (例)	1	14	6	16
うち緊急 (例)	-	8	10	10
帝王切開率 (%)	7.1	31.0	23.2	34.7

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年
35週未満	-	-	-	1
35週	-	1	-	2
36週	-	2	2	1
37週	1	12	5	11
38週	7	13	12	14
39週	1	16	19	24
40週	3	21	20	18
41週	2	5	11	4

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年
1,500-1,999g	-	-	1	1
2,000-2,499g	-	7	4	7
2,500g以上	14	63	65	67

◆ 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
35歳未満	10	59	55	59
35-39歳	3	11	12	14
40-44歳	1	1	2	2

◆ 合併症妊娠 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮筋腫	-	-	-	3
卵巣嚢腫(腫瘍)	-	-	2	1
子宮奇形	-	-	1	-
ウイルス性肝炎 (HA, HB, HCなど)	-	-	-	1

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2014年	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	-	7	10	9
妊娠高血圧症候群	-	1	3	4
胎内胎児発育制限	-	1	1	2
多胎妊娠	-	-	-	1
産後出血	-	-	-	5
常位胎盤早期剥離	-	-	-	1
低置胎盤	-	-	1	-
血液型不適合	-	-	-	2
胎児異常	-	-	-	2

◆ 産科手術他 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	5	-	-	-
子宮摘出術	5	-	-	-

(4) 桜井病院

◆ 入院数 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
入院数	688	586	559	509

◆ 分娩様式

	2014年	2015年	2016年	2017年
総分娩数 (例)	460	432	398	367
経陰分娩 (例)	400	369	329	306
帝王切開 (例)	60	63	69	61
うち予定 (例)	42	43	52	44
うち緊急 (例)	18	20	17	17
帝王切開率 (%)	13.0	14.6	17.3	16.6

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年
35週未満	-	1	-	-
35週	-	-	-	-
36週	7	5	4	5
37週	68	62	80	63
38週	70	74	65	66
39週	123	145	129	113
40週	144	102	88	89
41週	48	42	30	31
42週	-	1	-	-

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年
2,000-2,499g	17	17	23	13
2,500g以上	443	415	373	354

◆ 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
35歳未満	360	344	304	278
35-39歳	87	78	83	78
40-44歳	13	10	9	11

◆ 合併症妊娠 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮筋腫	9	10	4	5
子宮筋腫(核出術後)	-	1	-	2
卵巣嚢腫(腫瘍)	3	6	10	1
子宮頸癌(含円錐切除後)	1	2	1	-
甲状腺機能亢進症	4	4	-	3
甲状腺機能低下症	5	7	10	12
糖尿病(含GDM)	3	3	4	5
喘息	2	-	1	2
精神科疾患(含てんかん)	1	-	4	2
ウイルス性肝炎(HA, HB, HCなど)	2	-	-	1
消化器疾患(虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	1	-	2	1
その他	12	-	4	5

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2014年	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	7	3	5	4
妊娠高血圧症候群	5	3	1	5
胎内胎児発育制限	6	-	-	-
産後出血	8	11	4	4
弛緩出血	-	-	4	4
常位胎盤早期剥離	5	5	1	2
低置胎盤	1	4	1	2
血液型不適合	-	6	3	2
胎児異常	5	8	7	2
その他	-	-	-	1

◆ 産科手術他 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年
子宮頸管縫縮術	-	1	-	-
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	-	10	-	-

(5) 奈良県西和医療センター

◆ 入院数 (例)

産婦人科で入院した件数

	2015年	2016年	2017年
入院数	137	367	395

◆ 合併症妊娠 (例)

	2015年	2016年	2017年
子宮筋腫	1	1	1
子宮頸癌(含円錐切除後)	1	-	-
甲状腺機能低下症	2	-	-

◆ 分娩様式

	西和		
	2015年	2016年	2017年
総分娩数 (例)	37	102	150
経膈分娩 (例)	28	81	119
帝王切開 (例)	9	21	31
うち予定 (例)	6	9	18
うち緊急 (例)	3	12	13
帝王切開率 (%)	24.3	20.6	20.7

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	-	8	6
妊娠高血圧症候群	-	2	7
産後出血	9	-	-
弛緩出血	-	34	40

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2015年	2016年	2017年
36週	-	4	3
37週	7	12	10
38週	7	28	34
39週	11	28	50
40週	11	25	37
41週	1	4	15

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2015年	2016年	2017年
2,000-2,499g	1	8	14
2,500g以上	36	94	135

◆ 出産時年齢 (例)

	2015年	2016年	2017年
35歳未満	29	70	111
35-39歳	4	28	30
40-44歳	4	4	8

(6) 生駒市立病院

※2015年については2015.6.1(開設日)～2015.12.31のデータ

◆ 入院数 (例)

	2015年	2016年	2017年
入院数	67	109	84

◆ 分娩様式

	生駒		
	2015年	2016年	2017年
総分娩数 (例)	22	109	84
経膈分娩 (例)	18	89	71
帝王切開 (例)	4	20	13
うち予定 (例)	2	16	9
うち緊急 (例)	2	4	4
帝王切開率 (%)	18.2	18.3	15.5

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2015年	2016年	2017年
36週	-	1	-
37週	-	6	8
38週	9	31	14
39週	8	28	30
40週	4	33	26
41週	1	10	6

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2015年	2016年	2017年
1,500-1,999g	-	-	1
2,000-2,499g	1	3	2
2,500g以上	21	106	81

◆ 出産時年齢 (例)

	2015年	2016年	2017年
35歳未満	15	67	50
35-39歳	4	35	23
40-44歳	3	7	10
45歳以上	-	-	1

◆ 合併症妊娠 (例)

	2015年	2016年	2017年
子宮筋腫	-	1	-
子宮筋腫(核出術後)	-	2	2
卵巣嚢腫(腫瘍)	-	-	1
甲状腺機能亢進症	-	-	1
糖尿病(含GDM)	-	1	3
喘息	-	-	3
精神科疾患(含てんかん)	-	-	1
消化器疾患(虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	-	-	2
その他	-	-	2

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	1	3	2
妊娠高血圧症候群	1	2	3
胎内胎児発育制限	-	-	1
前置胎盤	1	1	1
産後出血	-	1	-
羊水過多	-	7	-
羊水過小	-	8	-
胎児異常	-	1	-

◆ 産科手術他 (例)

	2015年	2016年	2017年
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	3	6	10
子宮摘出術	7	3	11
その他	-	-	31

◆ 輸血治療症例 (例)

	2015年	2016年	2017年
輸血治療症例	-	-	2

8. 県内分娩取扱診療所

◆ 入院数（例）

	2015年	2016年	2017年
入院数	2,405	1,724	2,064

◆ 分娩様式

	2015年	2016年	2017年
総分娩数	5,830	5,418	5,213
経膣分娩	4,949	4,563	4,275
帝王切開	881	848	938
うち予定	538	483	504
うち緊急	343	364	434
帝王切開率（%）	15.1	15.7	18.0

◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年
35週未満	3	3	-
35週	15	14	12
36週	98	89	94
37週	458	438	414
38週	1,172	1,133	1,203
39週	1,800	1,714	1,610
40週	1,660	1,513	1,384
41週	536	489	447
42週	29	12	25
42週以上	2	-	1

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年
1,500-1,999g	10	2	6
2,000-2,499g	280	244	247
2,500g以上	5,163	5,162	4,942

◆ 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年
35歳未満	4,118	4,043	3,877
35-39歳	1,158	1,171	1,099
40-44歳	180	207	226
45歳以上	2	-	6

◆ 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年
子宮筋腫	58	103	47
子宮筋腫（核出術後）	18	18	12
卵巣嚢腫（腫瘍）	26	20	19
子宮頸癌（含円錐切除後）	13	14	10
子宮奇形	3	7	1
甲状腺機能亢進症	13	12	13
甲状腺機能低下症	21	22	28
糖尿病（含GDM）	9	20	40
喘息	27	28	46
慢性腎炎	-	-	1
本態性高血圧	3	-	-
ITP	-	2	1
自己免疫疾患	1	-	4
循環器疾患	3	-	1
精神科疾患（含てんかん）	16	13	5
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	13	9	5
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	8	2	6
その他	1	1	7

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	268	455	146
妊娠高血圧症候群	84	77	55
胎内胎児発育制限	41	38	82
多胎妊娠	2	4	1
前置胎盤	3	2	-
産後出血	168	165	75
常位胎盤早期剥離	8	12	9
HELLP症候群	3	1	1
低置胎盤	5	17	15
血液型不適合	18	14	13
羊水過多	11	33	24
羊水過小	26	47	38
胎児異常	24	6	7
その他	8	13	2

◆ 産科手術他（例）

	2015年	2016年	2017年
子宮頸管縫縮術	23	4	10
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	7	2	1
産道血腫除去術	11	6	6
その他	5	1	2

◆ 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年
輸血治療症例	14	8	8

9. 県内分娩取扱助産所

◆ 入院数（例）

	2015年	2016年	2017年
入院数	238	216	205

◆ 出産時年齢（例）

	2015年	2016年	2017年
35歳未満	183	141	146
35-39歳	48	67	50
40-44歳	7	9	9

◆ 分娩様式

	2015年	2016年	2017年
総分娩数	238	216	205
経膈分娩	238	216	205
帝王切開	-	-	-

◆ 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年	2017年
子宮筋腫	3	1	5
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	3
甲状腺機能亢進症	1	-	-
精神科疾患（含てんかん）	1	-	-

◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2015年	2016年	2017年
37週	14	-	12
38週	35	10	44
39週	94	43	68
40週	87	69	62
41週	7	84	19
42週	1	10	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2015年	2016年	2017年
切迫早産・前期破水	8	8	12
胎内胎児発育制限	2	-	-
産後出血	-	-	1
その他	-	1	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

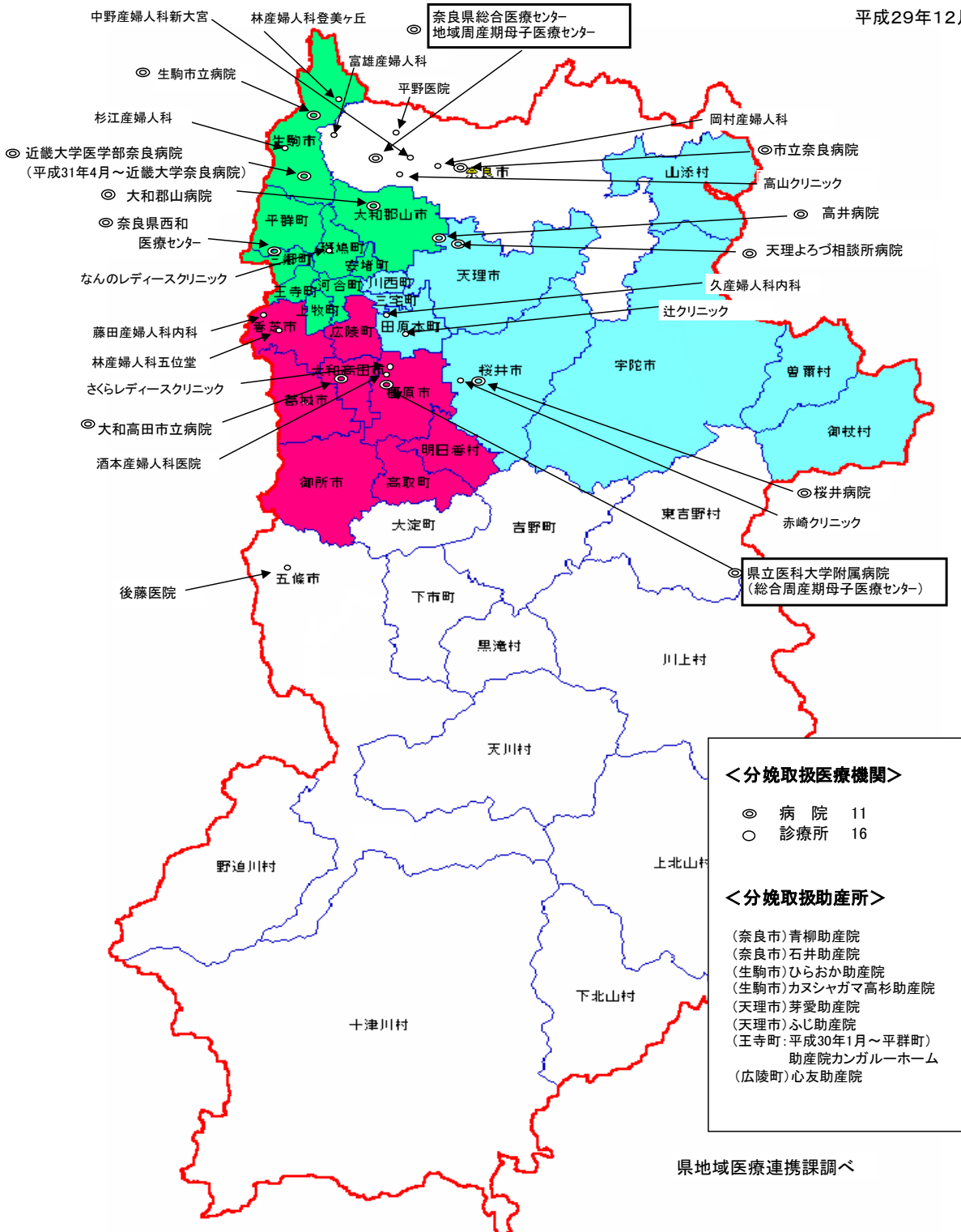
	2015年	2016年	2017年
2,000-2,499g	1	3	2
2,500g以上	237	213	203

III. 参考資料

1. 奈良県産婦人科（周産期）医療体制図

奈良県産婦人科(周産期)医療体制図

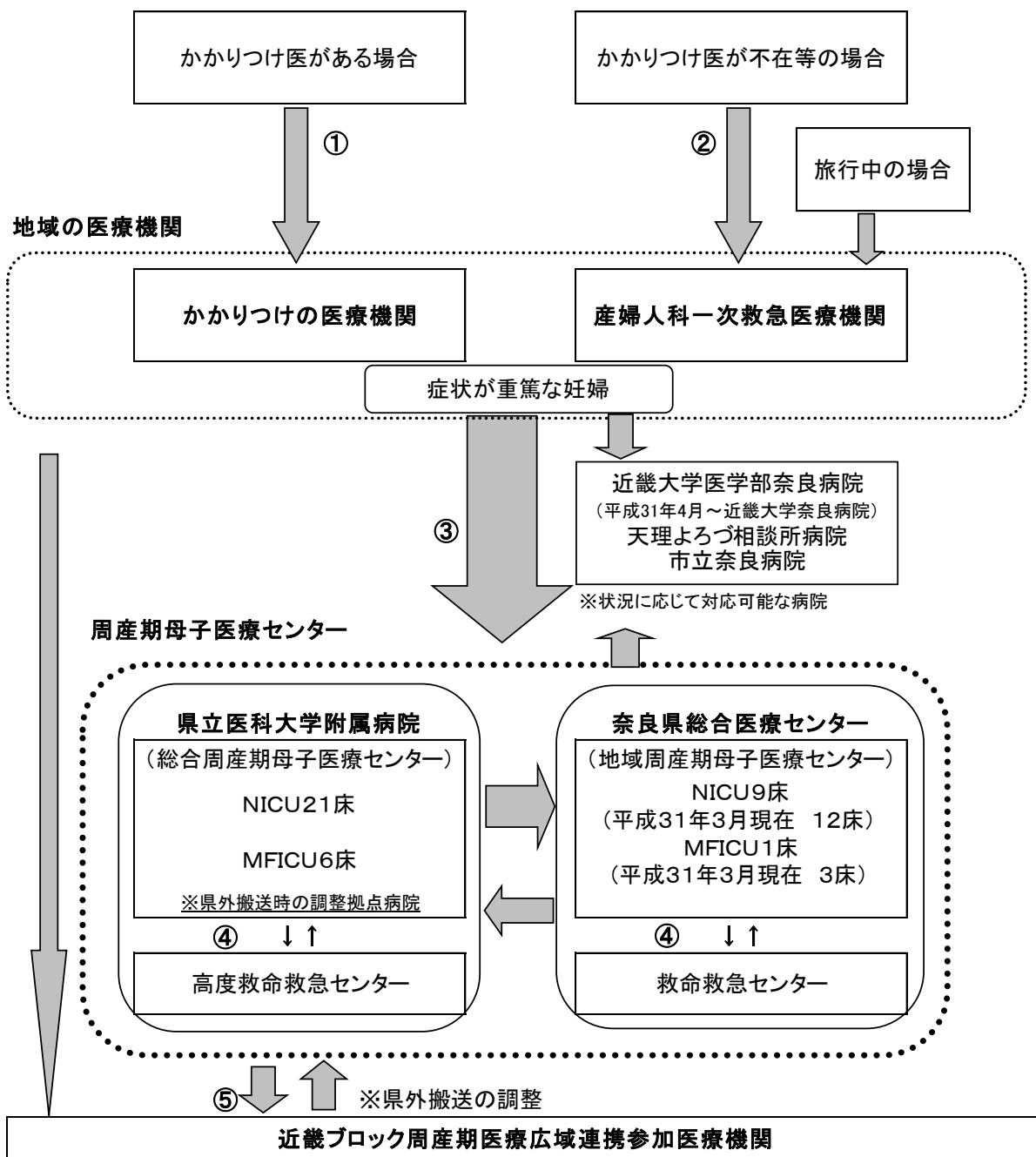
平成29年12月現在



県地域医療連携課調べ

2. 母体搬送連携イメージ

平成29年12月現在

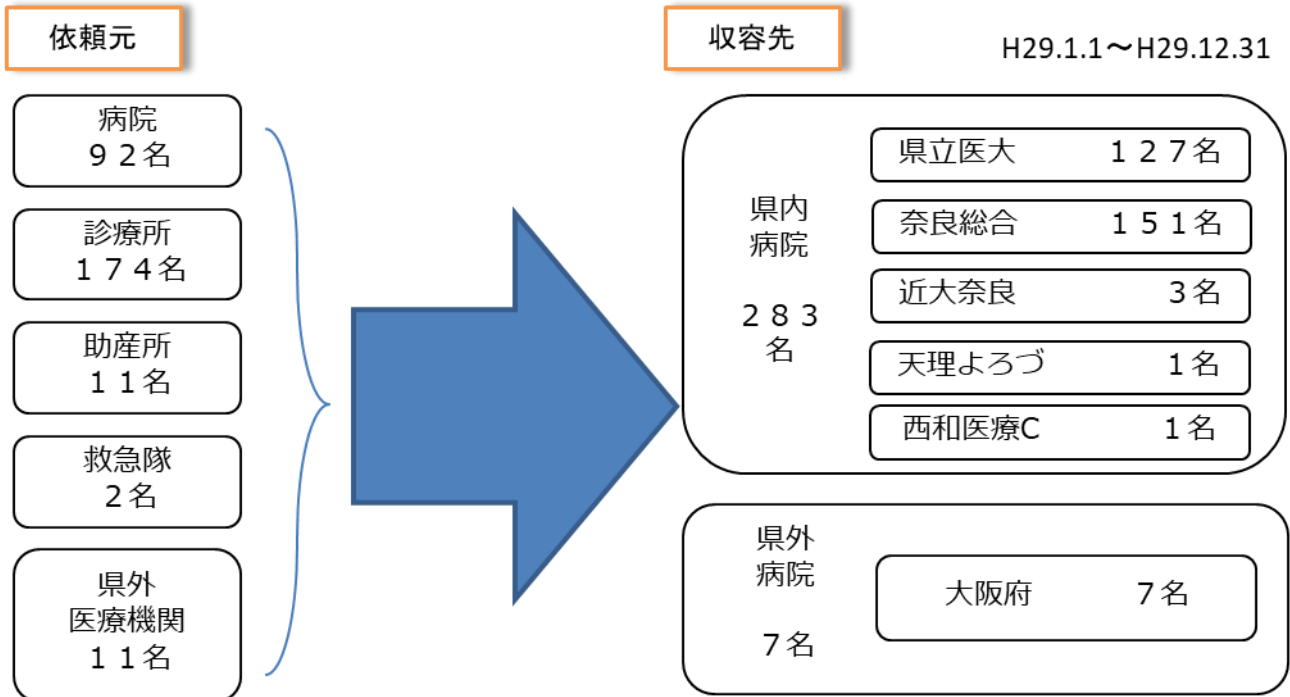


- ① かかりつけ医がまず対応
- ② かかりつけ医がいないもしくは対応できない場合には産婦人科一次救急医療機関が対応
- ③ かかりつけ医、産婦人科一次救急医療機関等地域の医療機関で対応ができない症状の場合は周産期母子医療センターが対応
- ④ 周産期母子医療センターにおいて産科合併症以外の合併症等の重篤な症状の場合、必要に応じて併設する救命救急センターと連携し、対応
- ⑤ 万一母体の県外搬送が必要になった場合、近隣府県の広域搬送調整拠点病院を通じて、早急に県外搬送先を選定し、搬送

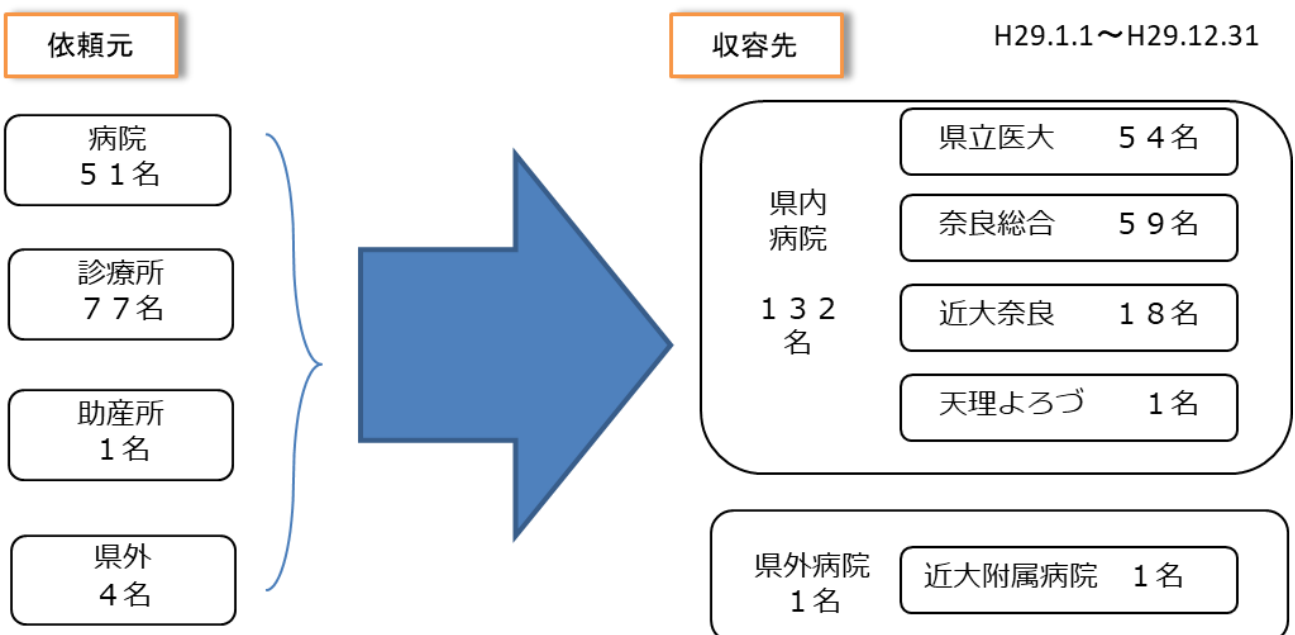
3. 母体・新生児搬送状況

奈良県周産期医療情報システムを利用した搬送状況

◆母体搬送



◆新生児搬送



4. 産婦人科一次救急体制参加医療機関

産婦人科一次救急体制参加医療機関一覧

(地域別、五十音順)
(平成29年12月31日現在)

地域	医療機関名	住所及び電話番号
北和	岡村産婦人科	奈良市西木辻町30 0742-23-3566
	きよ女性クリニック	奈良市石木町50-1 0742-53-0411
	市立奈良病院	奈良市東紀寺町1-50-1 0742-24-1251
	杉江産婦人科	生駒市本町1-11-3 0743-75-0123
	富雄産婦人科	奈良市三松4-878-1 0742-43-0381
	中野産婦人科	奈良市四條大路1-3-57 0742-30-0039
	なんのレディースクリニック	生駒郡斑鳩町興留5-14-8 0745-75-5623
	大和郡山病院	大和郡山市朝日町1-62 0743-53-1111
中南和	赤崎クリニック	桜井市大字谷111 0744-43-2468
	酒本産婦人科	橿原市内膳町4-4-26 0744-25-3389
	桜井病院	桜井市桜井973 0744-43-3541
	内藤医院	桜井市桜井996 0744-42-2138
	林産婦人科五位堂医院	香芝市真美ヶ丘一丁目13-27 0745-71-5201

5. 産婦人科対応マニュアル

産婦人科救急対応マニュアル（抜粋）

1. 一次救急編

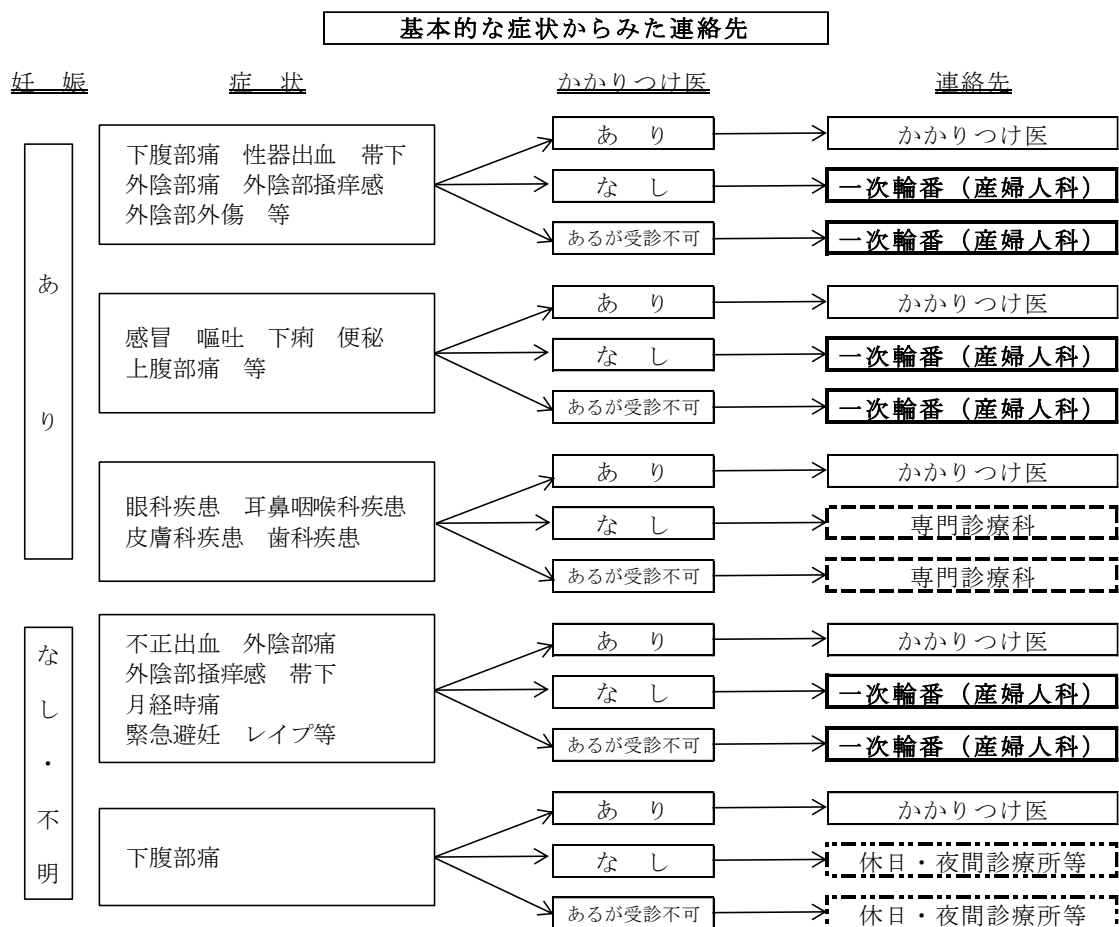
このマニュアルは、休日・夜間等に救急要請や受診要請があった際に、産婦人科の受診が必要か、その他の診療科の受診が必要かの判断をするための、目安とするためのチェックリストとして作成いたしました。

このマニュアルは救急隊が患者と直接の電話対応に使用したり、医事受付担当者や守衛等が休日・夜間等に受付を行なう際に最低限必要な情報を確認し、診療科の判断が出来るように作成しています。

実際は医事受付担当者等が患者との対応を行なう例もありますが、本来患者との電話対応は医師、看護師が行なうことが望ましいのはいままでのないため、医事受付担当者等は医師、看護師等との連絡を密に取った上で対応に当たるよう努めてください。

なお、マニュアルの使用前に一般救急として必要な項目の聞き取り等は、別に行なってください。その結果、産婦人科受診が必要と認められた場合にご使用いただきますようお願いいたします。

また、このマニュアルにかかわらず、緊急度が高い際にはそれぞれ関係者の判断により対処いただきますようお願いいたします。



6. 分娩取扱医療機関一覧

奈良県内の分娩取扱医療機関一覧

平成29年12月31日現在

医療機関名		医療圏	住所
1	奈良県総合医療センター	奈良	631-0846 奈良市平松1丁目30番1号 (平成30年5月～630-8581 奈良市七条西町897番5号)
2	市立奈良病院	奈良	630-8305 奈良市東紀寺町1-50-1
3	高井病院	東和	632-0006 天理市蔵之庄町470-8
4	天理よろづ相談所病院	東和	632-0015 天理市三島町200番地
5	桜井病院	東和	633-0091 桜井市桜井973
6	大和郡山病院	西和	639-1013 大和郡山市朝日町1-62
7	近畿大学医学部奈良病院 (平成31年4月～近畿大学奈良病院)	西和	630-0227 生駒市乙田町1248番-1
8	生駒市立病院	西和	630-0213 生駒市東生駒1-6-2
9	奈良県西和医療センター	西和	636-0802 生駒郡三郷町三室1丁目14-16
10	県立医科大学附属病院	中和	634-0813 橿原市四条町840
11	大和高田市立病院	中和	635-0094 大和高田市磯野北町1番1号
病院計		11	
12	高山クリニック	奈良	630-8031 奈良市柏木町190-5
13	富雄産婦人科	奈良	631-0074 奈良市三松4丁目878番1
14	平野医院	奈良	631-0821 奈良市西大寺東町2-1-52
15	岡村産婦人科	奈良	630-8325 奈良市西木辻町30番地の10
16	中野産婦人科新大宮	奈良	630-8014 奈良市四条大路1丁目3-57
17	赤崎クリニック	東和	633-0053 桜井市大字谷111
18	久産婦人科	東和	636-0304 磯城郡田原本町十六面23番地の1
19	辻クリニック	東和	636-0300 磯城郡田原本町547
20	なんのレディースクリニック	西和	636-0123 生駒郡斑鳩町興留5丁目14-8
21	杉江産婦人科	西和	630-0257 生駒市元町1丁目11-3
22	林産婦人科登美ヶ丘	西和	630-0115 生駒市鹿畑町55番1
23	酒本産婦人科	中和	634-0804 橿原市内膳町4-4-26
24	藤田産婦人科	中和	639-0251 香芝市逢坂7丁目130番地の1号
25	林産婦人科五位堂	中和	639-0223 香芝市真美ヶ丘1-13-27
26	さくらレディースクリニック	中和	634-0803 橿原市上品寺町528
27	後藤医院	南和	637-0041 五條市本町1-7-23
診療所計		16	
28	青柳助産院	奈良	630-8036 奈良市五条畑1丁目17番10-1号
29	石井助産院	奈良	630-8107 奈良市奈保町5番21号
30	カヌシャガマ高杉助産院	西和	630-0136 生駒市白庭台3丁目15番10
31	芽愛助産院	東和	632-0094 天理市前裁町274-1
32	ふじ助産院	東和	632-0004 天理市樺本町2071-8
33	ひらおか助産院	西和	630-0101 生駒市高山町7747番1
34	助産院カンガルーホーム	西和	636-0003 北葛城郡王寺町久渡2丁目12番26号 (平成30年1月～636-0904 生駒郡平群町三里139-9)
35	心友助産院	中和	635-0823 北葛城郡広陵町三吉 赤部 260-3
助産所計		8	

県地域医療連携課調べ

7. 奈良県周産期医療協議会委員名簿

奈良県周産期医療協議会委員名簿

H29.12..31現在

区 分	役 職	氏 名
医科大学 (総合周産期 母子医療センター)	公立大学法人奈良県立医科大学 産婦人科学教室教授	小林 浩
	公立大学法人奈良県立医科大学 総合周産期母子医療センター教授	西久保 敏也
関係団体	奈良県産婦人科医会長	赤崎 正佳
地域周産期 母子医療センター	奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 周産期母子医療センター長 兼産婦人科部長	喜多 恒和
	奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 新生児集中治療室部長	箕輪 秀樹
病 院	市立奈良病院 産婦人科部長	原田 直哉
	天理よろづ相談所病院 産婦人科部長	藤原 潔
	近畿大学医学部奈良病院 産婦人科教授	大井 豪一
助産師会	奈良県助産師会	高橋 律子
消 防	奈良県消防長会救急部会長 (奈良県広域消防組合消防本部救急部長)	丹治 準治
奈 良 県	医療政策部長	林 修一郎

奈良県周産期医療年報

令和元年（2019年）7月

発行 奈良県周産期医療協議会